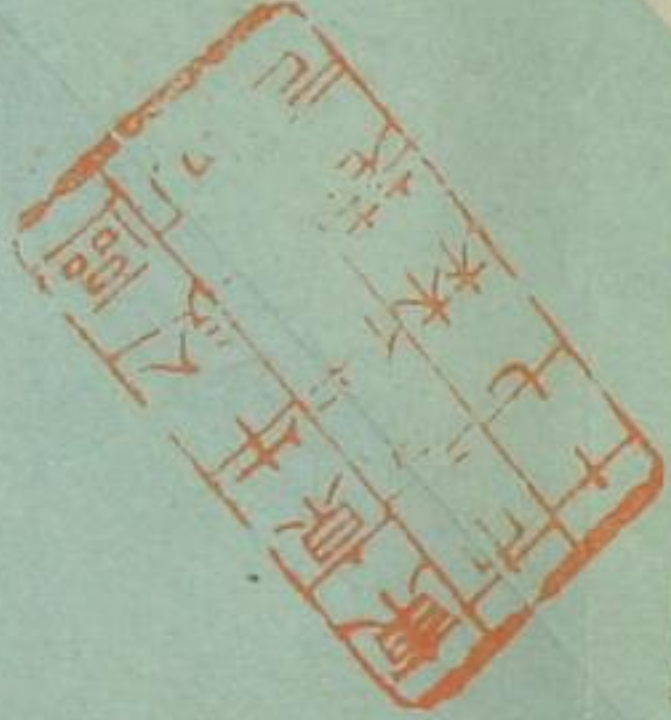


共古日録

五

山中 河野 富子 野郎 先生

野郎 先生



特別
45
1413
7



門 15
號 1413
卷 7

塩原多由の
御中
御書



共
録
五

塩原多由の御書
御書

神田川の底の
御書

古河
御書

天狗の御書
御書

王子寺
御書

嵯峨の御書
御書

慶長戊申仲夏五日

也
是
書

表無表
御書

正應五年
十一月二十五日



早稲田大学
25.10.24
乗

古板三世相

三世相 石岸 敬人 述 二册
同 鈔 安田 昌庵

大坂物語

大坂物語 上下 二册 敬賀屋 三右衛門

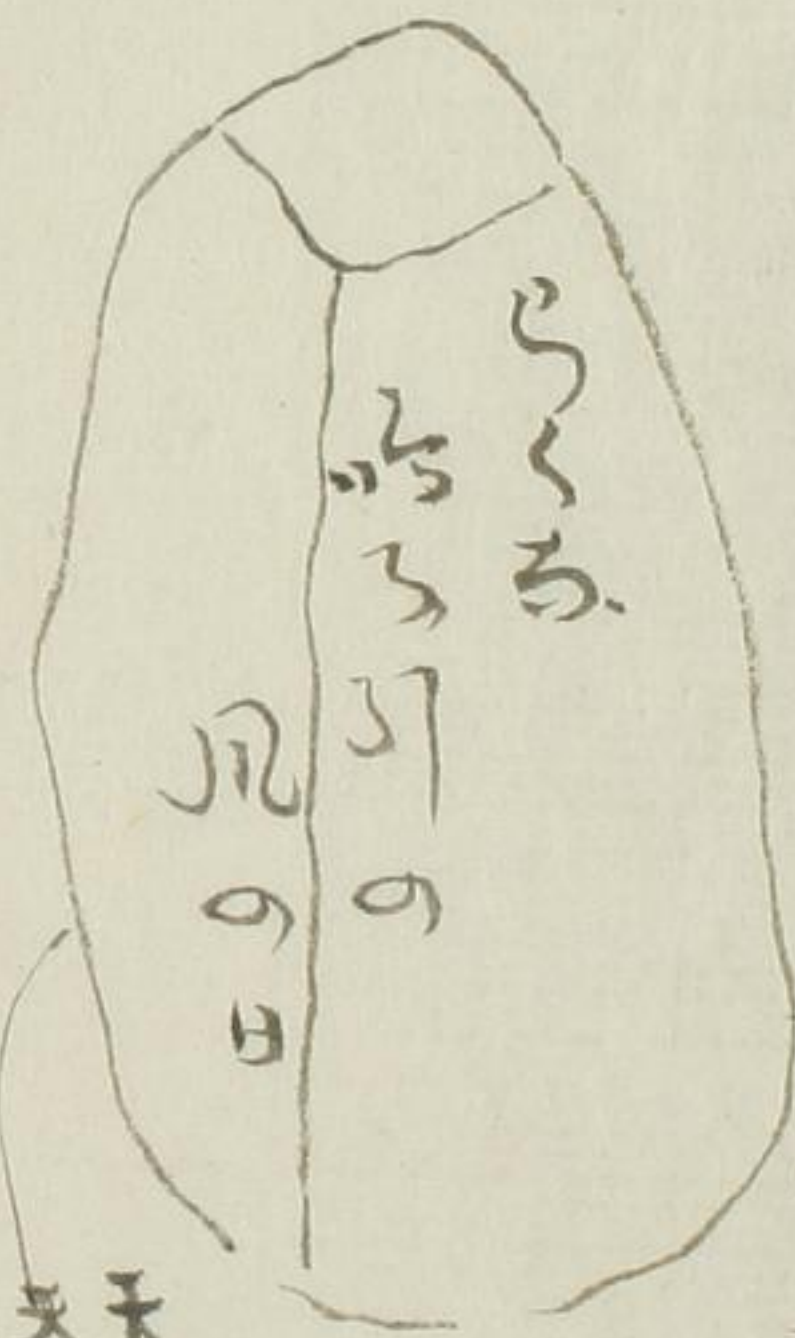
狂言記

狂言記 五册

右狂言記 拙者 家之 誰為 秘 密 任 事 所 望 写 之 今 後

砂打の傳

砂打の傳 砂打之八幡境あり
研ありなるんか
解せぬと云う



天正
月

かまきり
父の仇

古板笈

よる回す此の抄と云ふの深川の船より
永平寺に籠あり在り一ありと云ふ
崎田吐伸公羽藏に收め及あり表

唐文長七年即七月七日

府下の名木

府下の名木 名あるもの
或舟より採り銀杏

昔書の本 柿

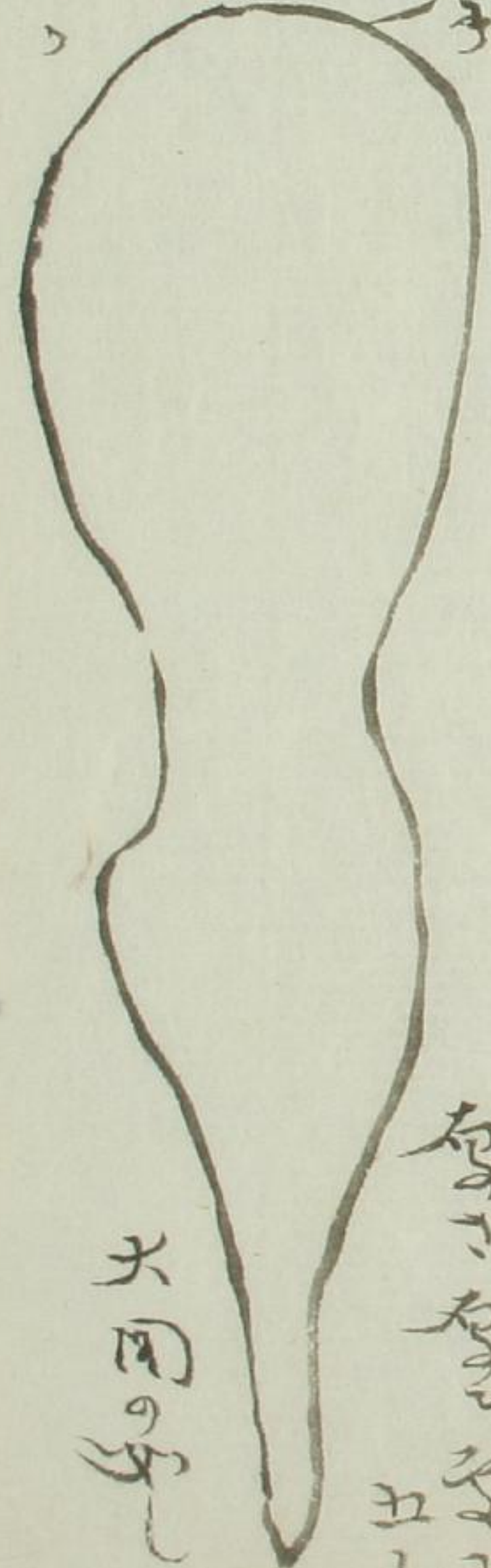
煉りし書 巻のあり

今戸の子守 銀杏
秘葉の 松
又 ぬ 棧

南蠻鉄

南蠻鉄の心
南蠻鉄の心

南蠻鉄の心
南蠻鉄の心
南蠻鉄の心



大岡の心

有るものあり
五

狂歌神楽
のしと批り

近所の人の狂歌

近年の狂歌神楽は、而堂神楽と云ふ人、北海道に於て、
而堂神楽、現今の人、
此の人の、
四千両、白幡、鈴木、
此の狂歌、
此の狂歌、

高き武蔵の
北の狂歌

行徳、徳助、
此の狂歌、
百及、
天明、
火繩、

天和と云ふ
狂歌

行徳、
上人、

はなと云ふ、
狂歌

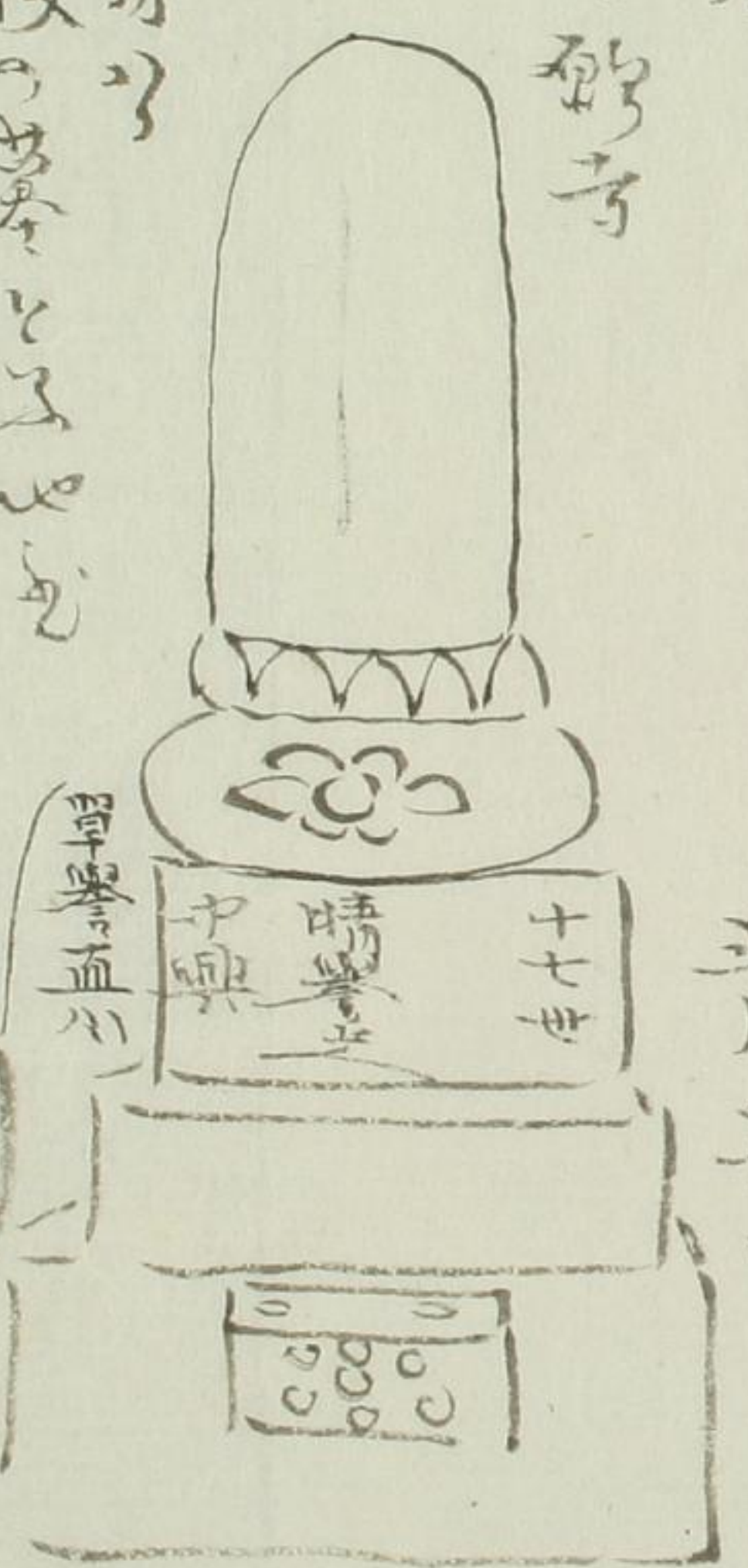
五月、山、
天和、二年、
元禄、

下總行徳、
十七世、

天和、七年、
同音、



天和、二年、
七月、



造作、
天和、二年、

八段

重宝のつら

長考

長考のつら

江戸名所草紙一巻の晴巻と人の高きとあれは海つりり
前山 惣蓮社 田舎言と人 不紙知宗と云し 僧と云 元知
三年九月二十三日 晴巻と云し

河内の者の聲に鳥の小便と云ふありこれ物々本
なる場合と云ふことなり
九州也 子てい雪雀のつら
子、ボコボコ 子、ボコボコ ヲノガストルゾ 八萬

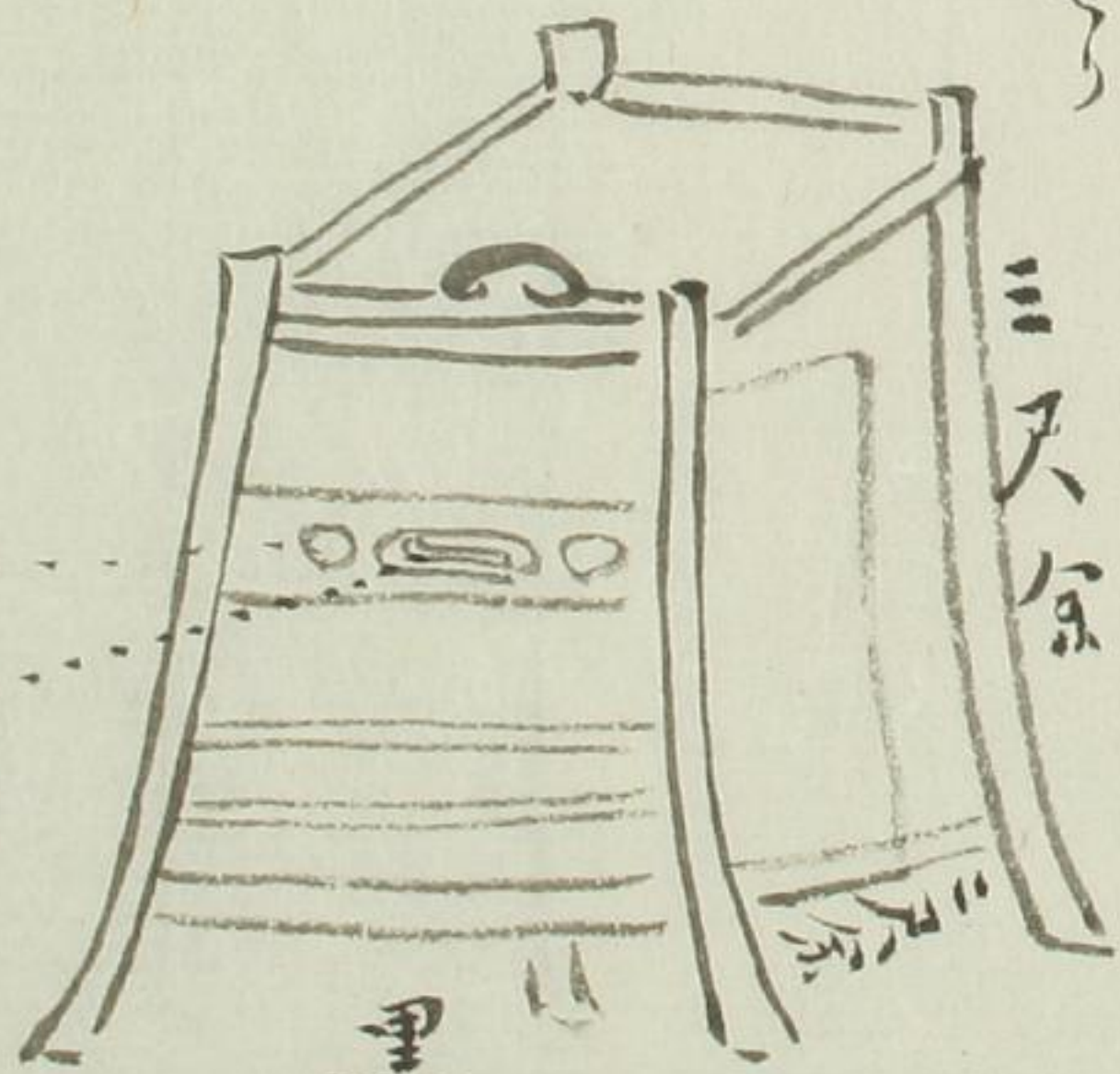
武蔵北在、つら、しと考のつ

長者考 月易義 白銀所 青月本 左京の家 米飯 田舎
と云ふ百七歳のめ 拾六万の美嫁と云ふと 百十六万也 生、根岸武

古段

香の十力のめ 武者十力と云は 淡路の船屋 船をよ 長考に
あやかしと云ふ 取と云ふと云ふことなり
武蔵入而即久来 永源寺 二代の僧持了 笈
左の意に 朱と云ふことなり

土佐州 幡多生 縁東旭作
大蔵 弘治二年 八月 十日



穴 錠の穴
左右とも穴あり

竹村の
高標の
餅の
現存

享保三年の餅の現存

現今安膏

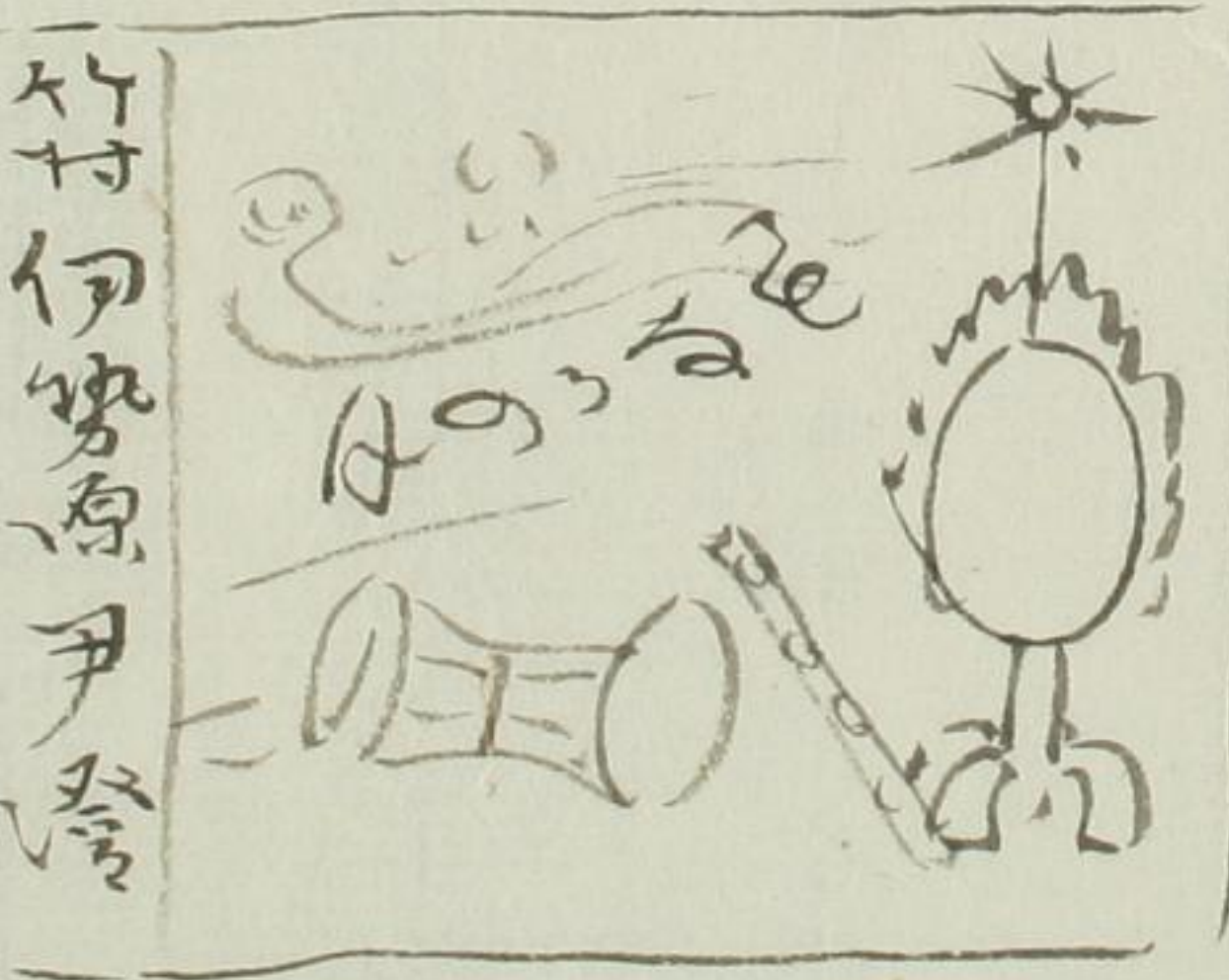
一可也此餅

るよりなる可也

こりお中にお世々安膏の全くと別
は万餅ずいんごんはかありくうごん
すゆいんごんはかありくうごん
菓よりごんは中以下もは指さす
心 享保三年の餅
竹村登庵が製し物とあるの月の高標の菓一環の筆

竹村の
高標の

なりと花街漫録にたす左の図を略せり



竹村伊勢源尹繪

竹村の
高標の
餅の
現存

約お後の公家年以迄は此の餅を
用可に三田あり 柴馬の為鞍田倉
を信の成りかへ木の揚枝 出膏
代り四代月とす 算盤占等約お前と

拾野の墓

探墓の成り

水野平八

苗字の成り
所望の墓不明

探墓の成り
佛の墓

内山橋新墓 七列寺所風林方に内山双六と云墓あり
そんちんか

芥原多田某所の邊に石勒某といひし墓ありと探墓
家ありしりかふる直種といふ

水野平八の墓場に向ふ百間の地新と云者ありと水谷の八百
善の墓にはし料理人ありしといふ

水野平八の墓 保元寺にありし
松平左金吾の墓 江戸に美草浦と云く地人麻布乳玉の石
墓不明

歌麿の墓 白山右燕の歌麿の墓と
不明

探墓二王門の二王を伴し佛師及部の子墓 上野東の
護國院にありし飯沼半十郎の墓にありし

江戸の墓

江戸の墓

江戸の墓 牛込中野の墓にありし石の墓ありしと探墓
寺ありしと探墓の成りありしと探墓の成りありしと探墓
江戸時代名なる墓

下谷 高岩寺 印徳心蔵
如來 聖徳寺 太平出現心蔵

坂本 善感寺 入谷 心蔵
小石川 牛天保 文箱

赤坂 梅屋院 芝草 大善寺 身代馬
馬 心蔵

三田 徳應寺 腹帯心蔵
三田 中道寺 矢除

愛宕下 福寺一言心蔵
増上寺 内長寺 火燭

芝大田寺 他道庵 白銀河内岸九新所 樋間

三田子塚福を
あまの

武蔵 因果
如多瓦川
河川万祥寺
如多栄蔵寺
高輪如來寺

六、
出瑞、

白銀池行寺
小梅梅村庵
小梅
河川来福寺
豊原川福寺
豊原

東京三田子塚福為水餅の飲

奉高進

御手水餅
和寶前

子塚福荷

天和二年九月七日

平井藤兵衛尉
井上江右衛門尉
忠直

佐野又左衛門尉
常任少内
豊多豊
慶

武蔵出羽
根岸の石巻出
手前の古物

銅鑄と石巻出

大朝金令

金光明四天王
開之寺に古物

武蔵根岸日吉村大加瀬の目塚より生かした
後志一寺即手前寺
大和國唐新那竹田村宝塚
大朝元國始より古錢厭勝
文アリ或金元和親ノ慶賀
河津の石巻大朝金令

朝鮮の銅馬

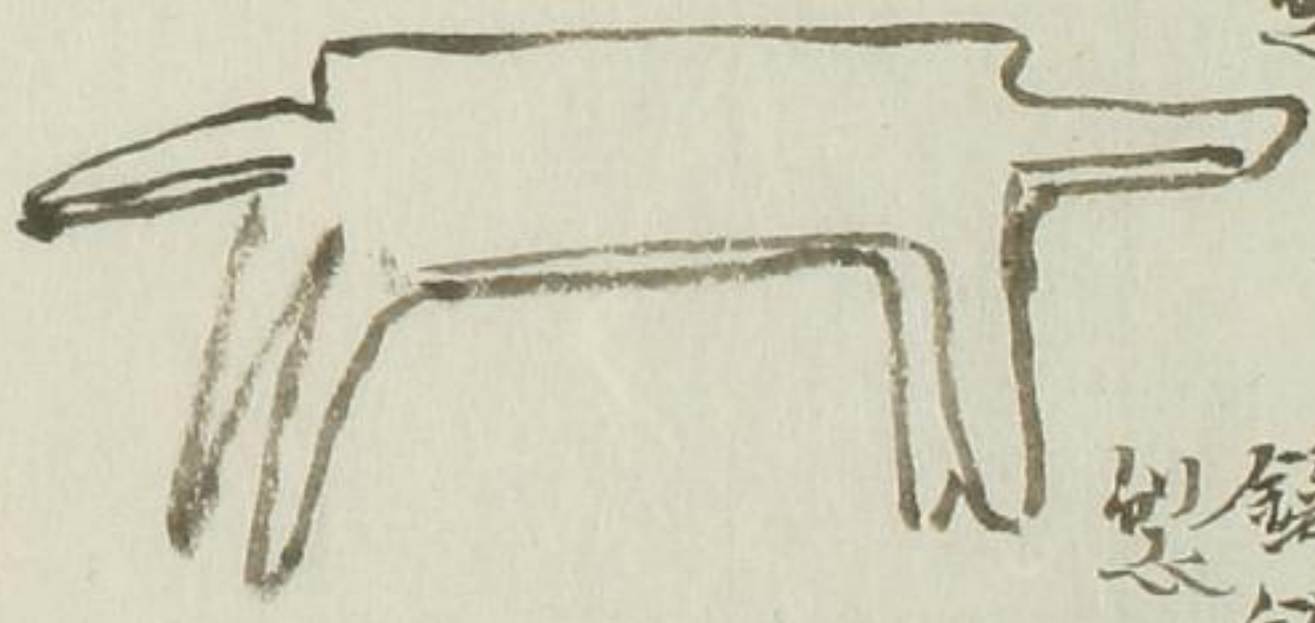
朝鮮の銅馬は、東金光明の天王菩薩の馬と云ふ
 のを、その形を以て、銅馬といふ。其の形は、
 東の國に在りて、其の形を以て、銅馬といふ。
 後、その形を以て、銅馬といふ。

韓國海製

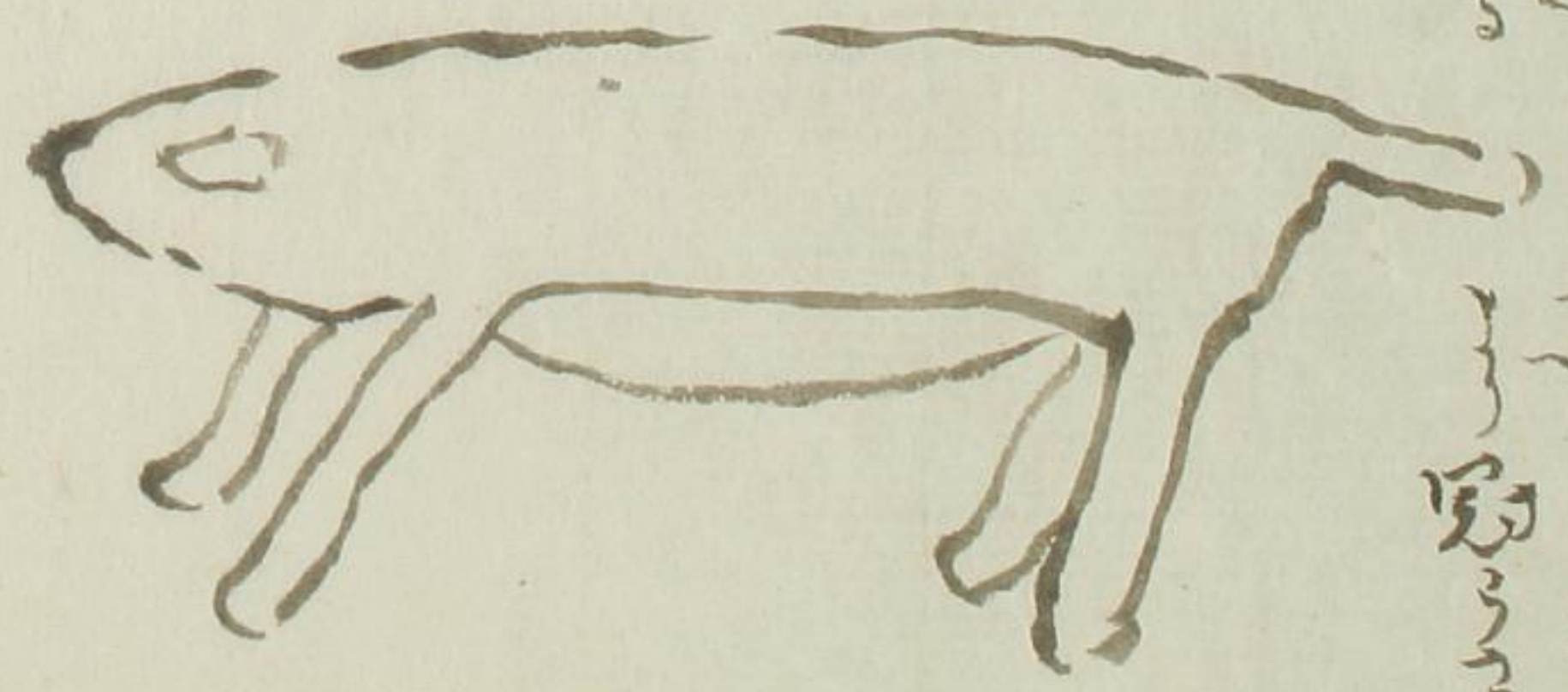
大サ何レモ
二石アリ



鉄板製



鑄鉄製



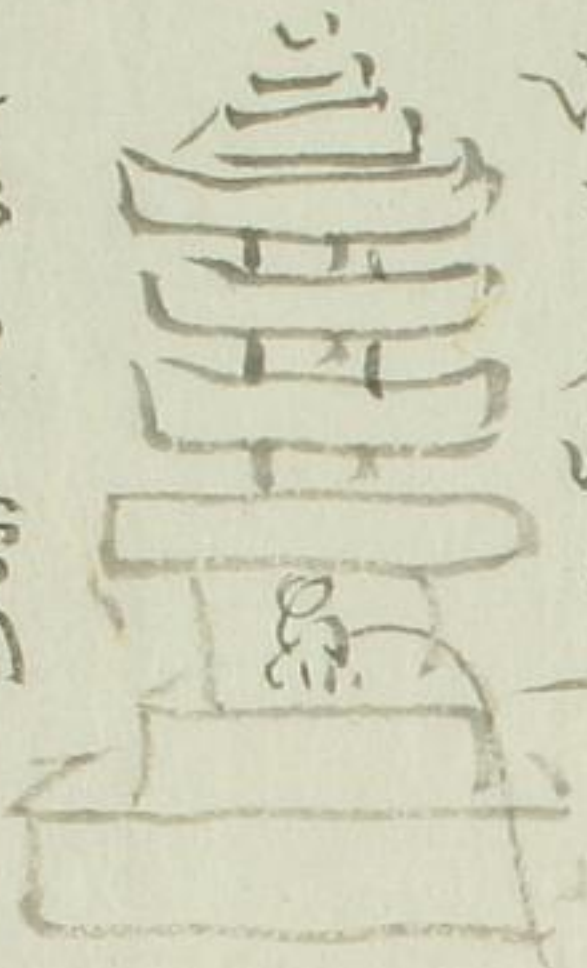
古墳の製

京都府京都市西區山崎三丁目
 少子寺 小川寺



深草小幡墓

世伝云



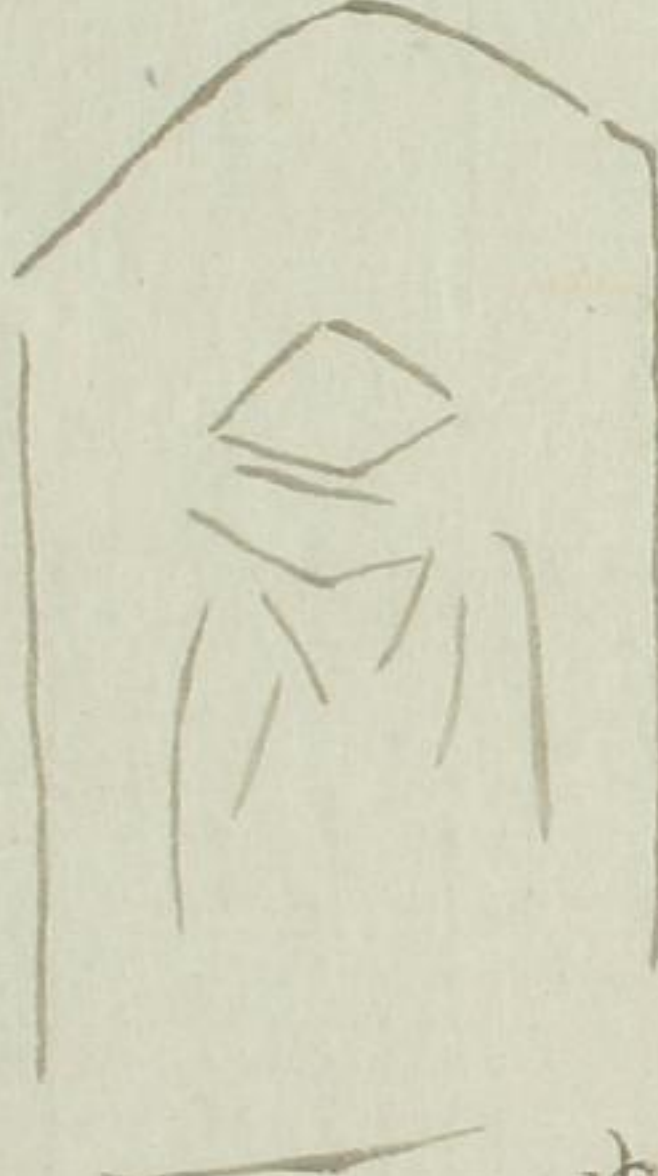
芝野寺古墳



長山寺古墳



奈良十福院



中二天宮長二尺余

新政墓

下野古野城中
 頼政古野中

柳舟の御出
の御出

中橋の御出

瓦倉の御出

カニの御出

川柳の御出

川柳の御出

柳舟の御出 柳舟の御出 柳舟の御出
中橋の御出 中橋の御出 中橋の御出
瓦倉の御出 瓦倉の御出 瓦倉の御出
カニの御出 カニの御出 カニの御出
川柳の御出 川柳の御出 川柳の御出
川柳の御出 川柳の御出 川柳の御出

柳舟の御出

柳舟の御出 柳舟の御出 柳舟の御出
中橋の御出 中橋の御出 中橋の御出
瓦倉の御出 瓦倉の御出 瓦倉の御出
カニの御出 カニの御出 カニの御出
川柳の御出 川柳の御出 川柳の御出
川柳の御出 川柳の御出 川柳の御出

宇城野東光寺
の古碑

陸奥東光寺碑 云城野岩山、東光寺

華嚴如來成直覺時所集
身中善見一心定生成正

嘉曆式年閏月日敬白

三月堂石燈

奈夏三月堂石燈筆銀

敬白

奉施入右燈臺一基

右志者為深宿願所

奉施入之狀如件

建長六年十月三日

伊、行末

力采力

成身院鐘

南都成身院鐘

成身院鐘大治四年

四月七日鑄造也。

治比類及等也唯願。

出茲善根及至群生。

聞聲人畜及至群生。

共成佛道矣。

既經此六受矣。

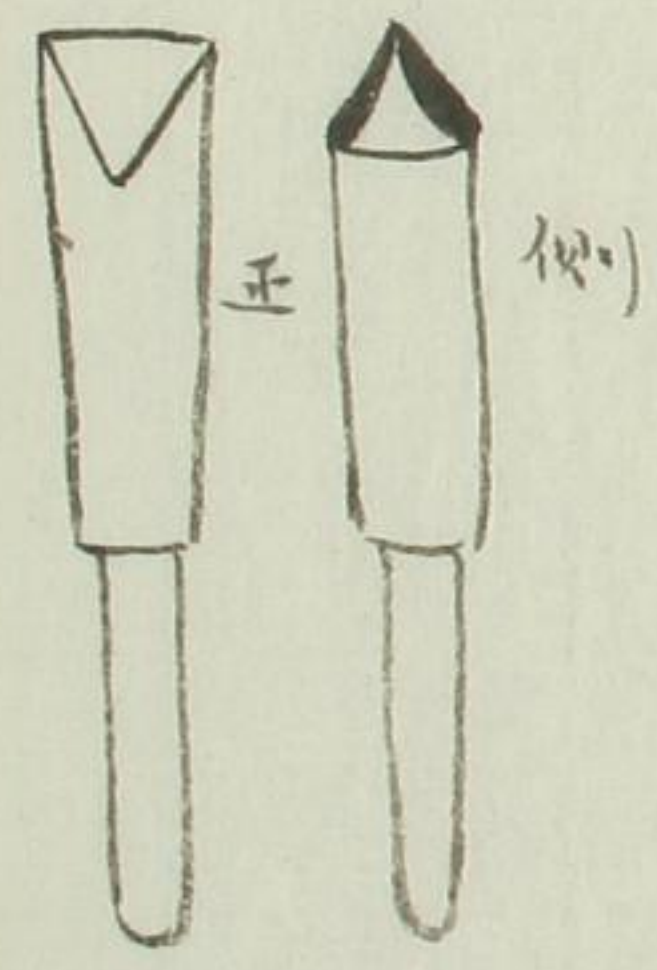
長亨二年甲申六月

二月而有緣全力以

尊智聖人鑄造之

銅鏡

上野國出土鏡



銅鏡
大

ナベハシ
ナベウラ

乳縫の手帳

二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

者ありてんを以てしりしやうの勢と云ふは
迷信者の世傳の類の者か終つての事あり
少許藩士の甲斐三河橋を記す如く
きく梅とら ヤブコ
有べし毒うつら
何れ二種ありしなり
弘化四年の相伝無始と云ふ能事ありし
多根相傳ありしなり
由來乳縫者新敷向の願巻を元負屬無復得
りしと云ふ何れ
安永の頃の慢女行脚日記と云ふと云ふ
ありしと云ふ人より云ふと云ふ

①

乳縫の成りゆの
小袖

近年東京流布するをばせ向しなり
のが本流なりと昔の抄をばせ向しなり
せぬ約束を昔の抄をばせ向しなり
狂言破者流の類ありしなり
由來

一 小紋の巾着袖
二 小紋の巾着袖
一 小紋の巾着袖
右二品 慶長十五
東照宮様 十七

孫殿...
此の世の令は身者也

藤原定實の面

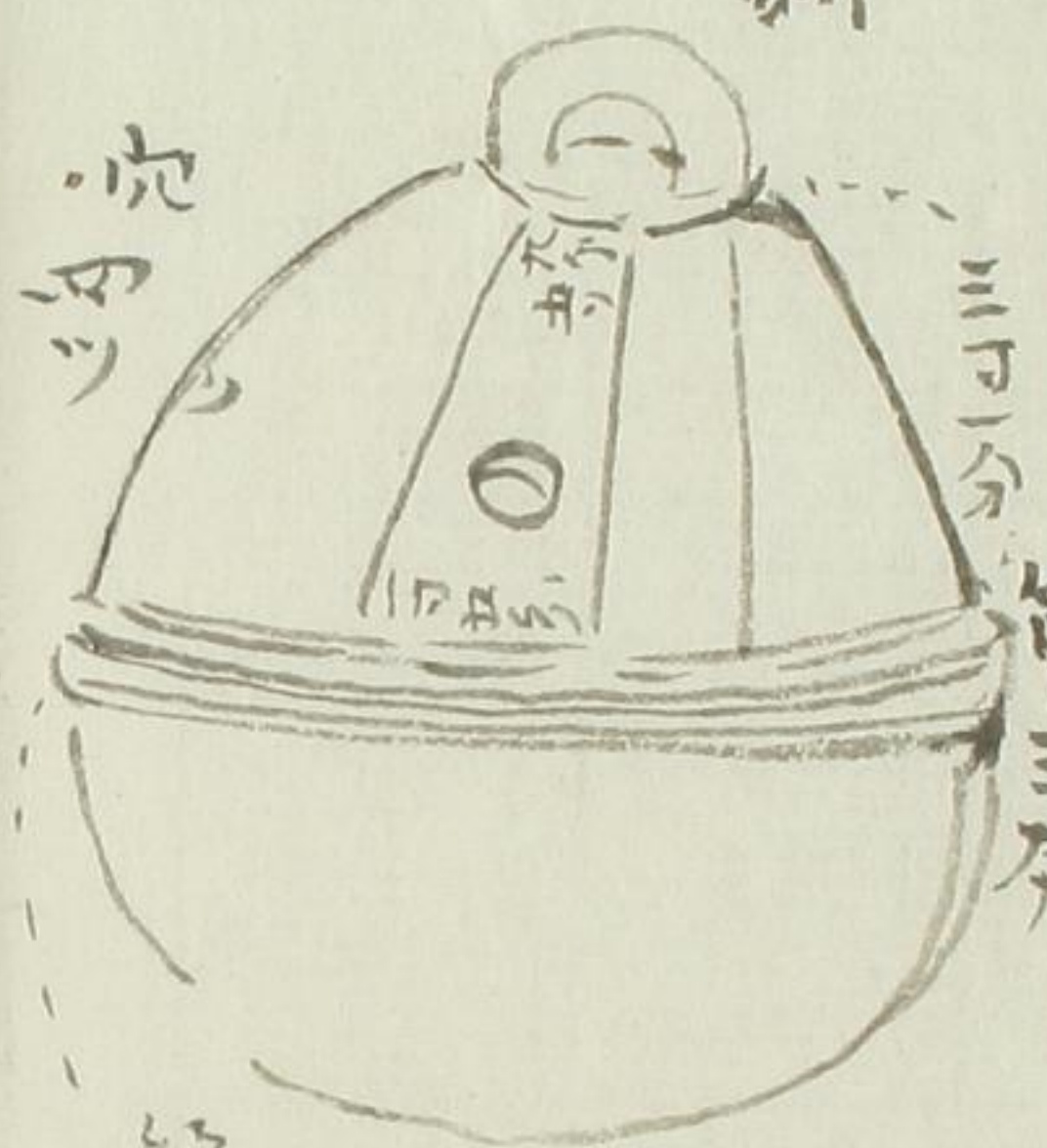
藤原定實の面

世の夏是二ハ袖の...
村... 永... 三... の... 及... の... 右... 像...

流行者の古石像

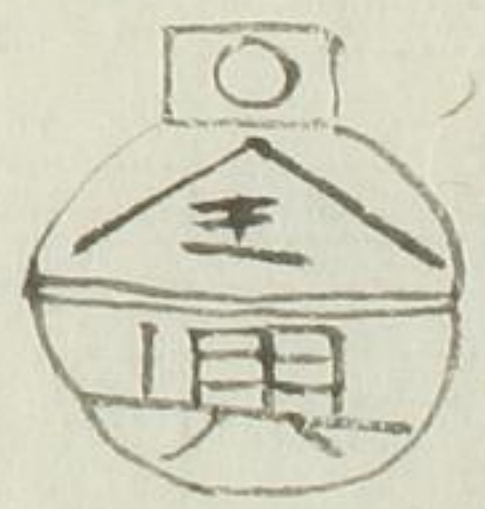
鈴鐸類

八角古銅
鈴

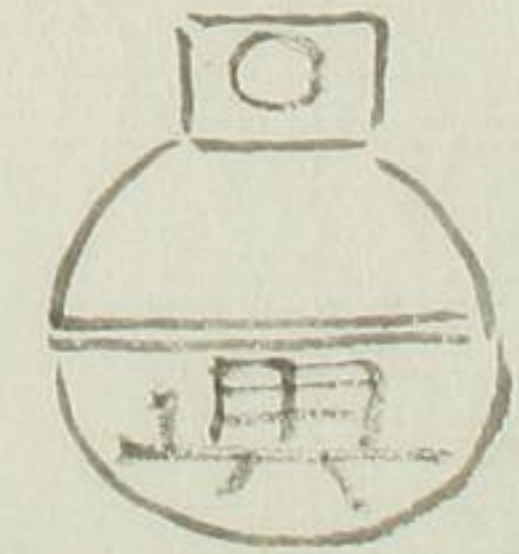


穴
ハツ

三寸五分



支那鈴



ミヤムロの國... 鈴... 鉄... を... た... の

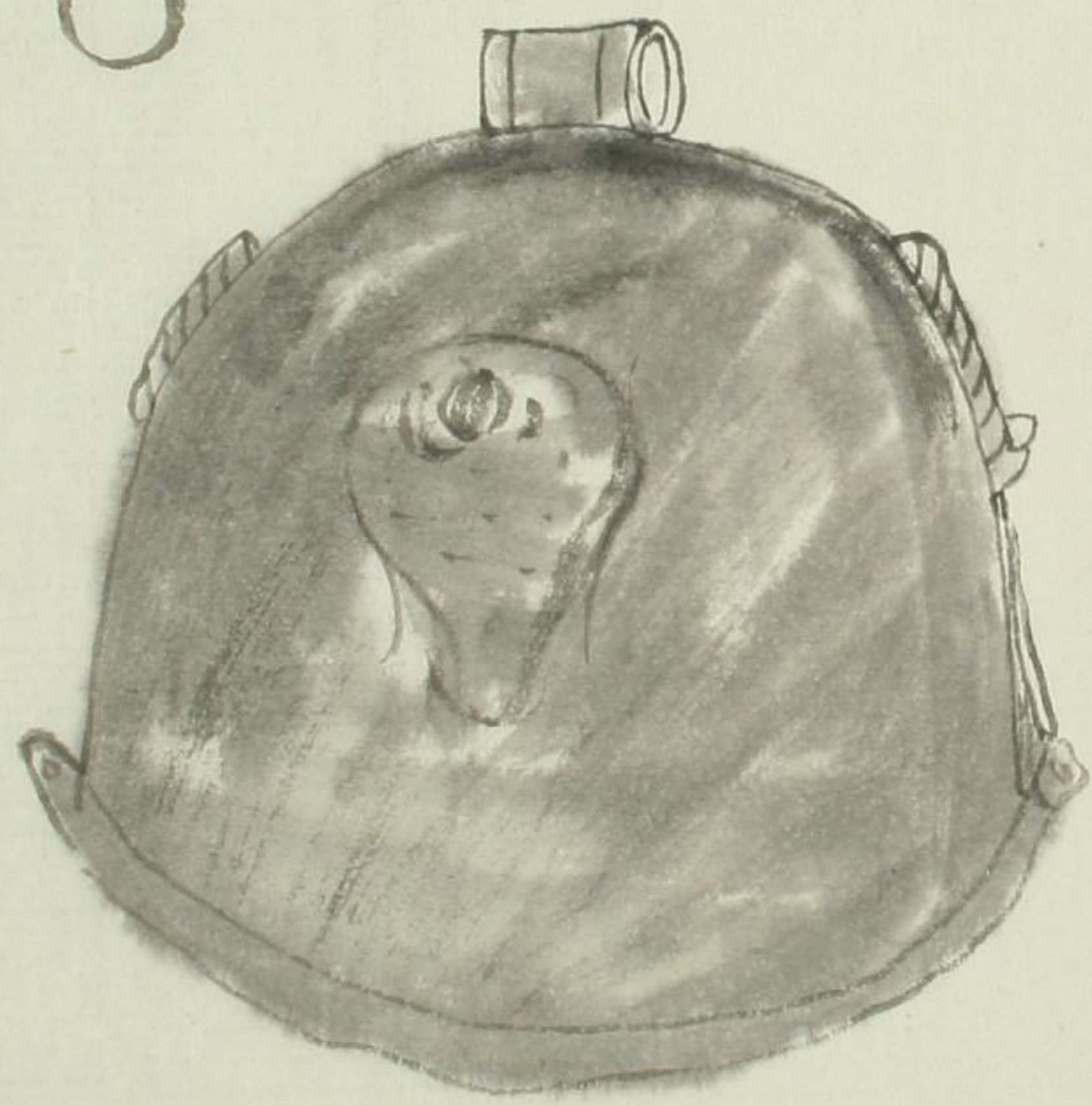
清國金... 城... 樓

鉄鐸

十又
六、六、六



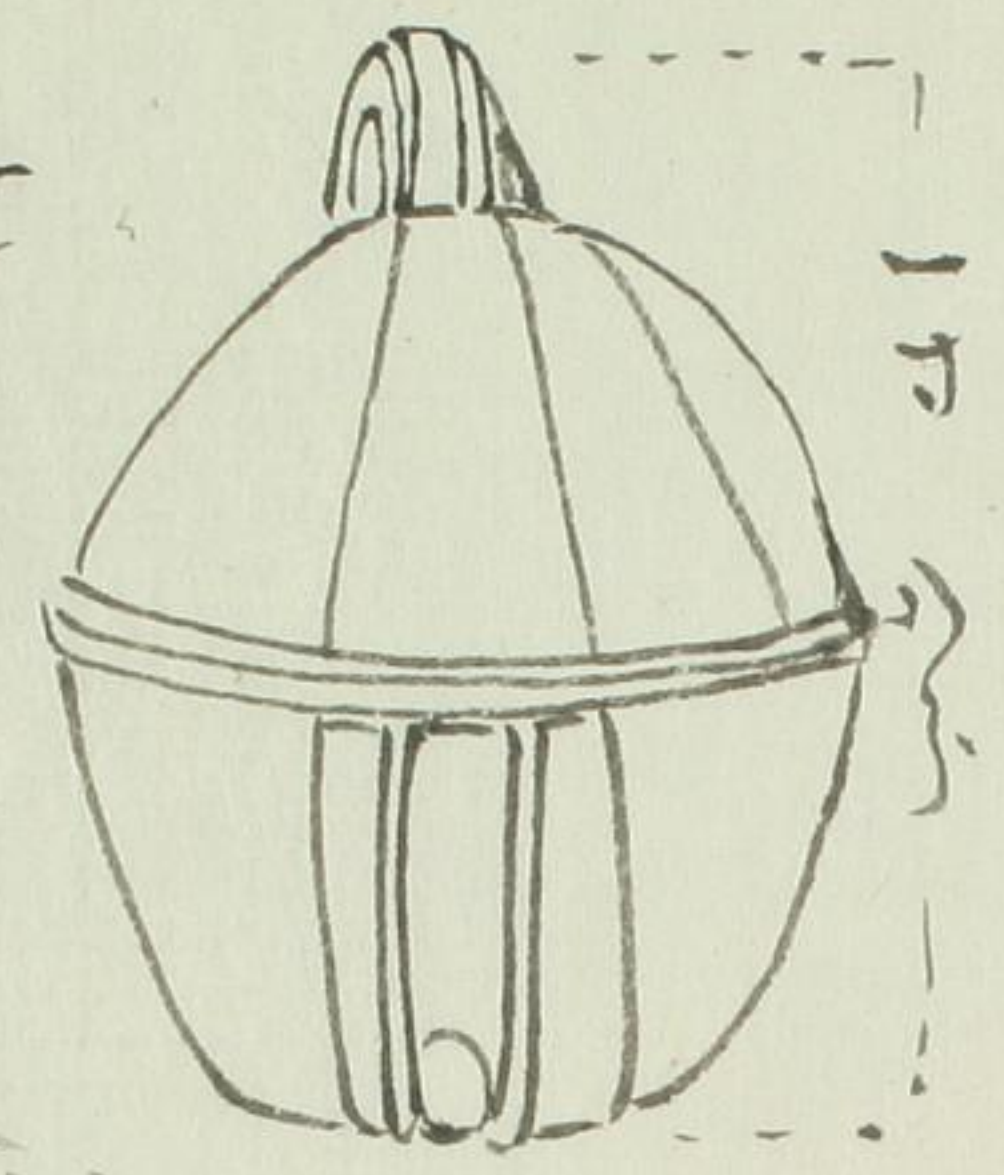
鐘舌鑄鉄
六寸六分圓ノ鐸中ニアリ



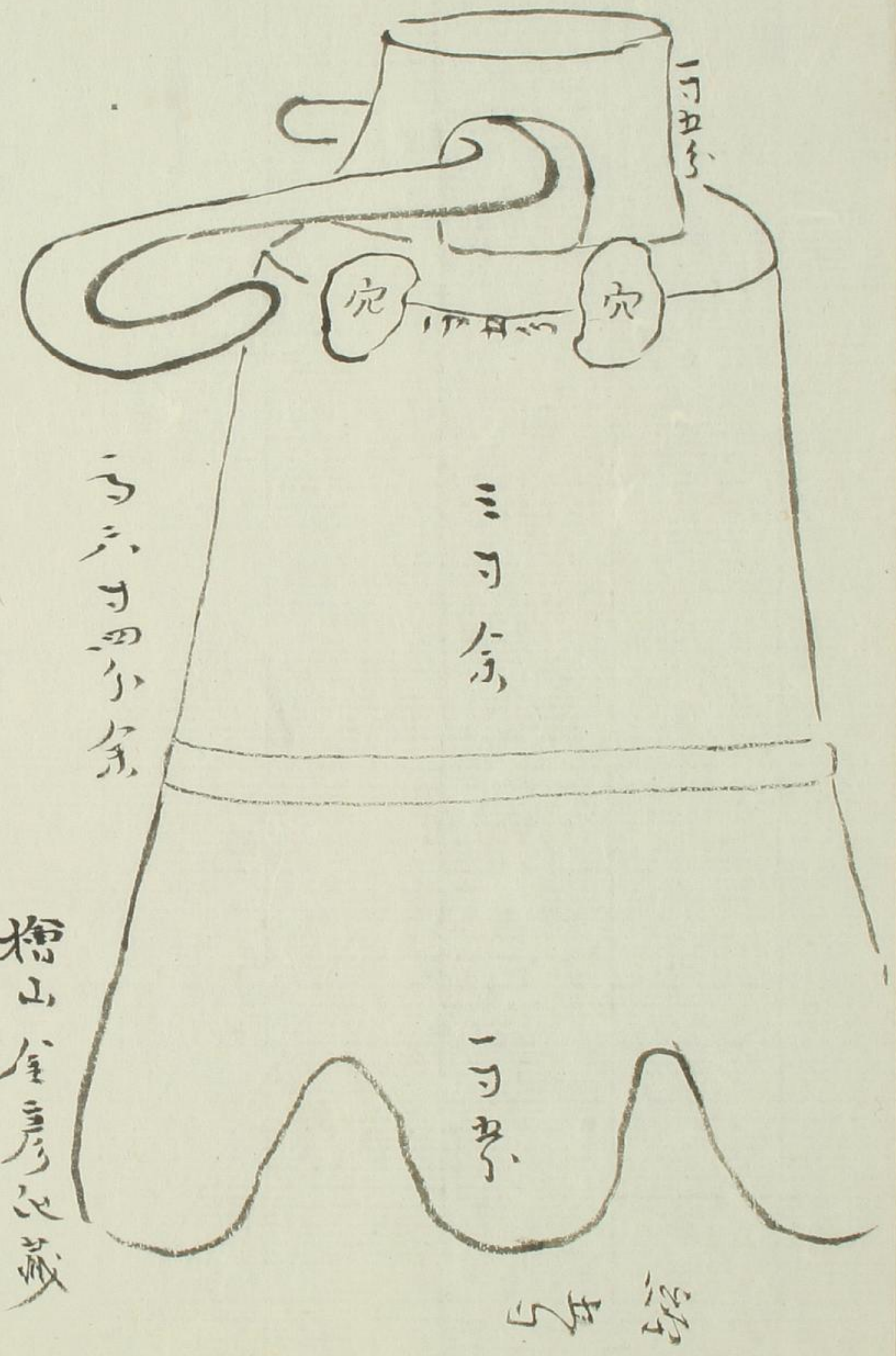
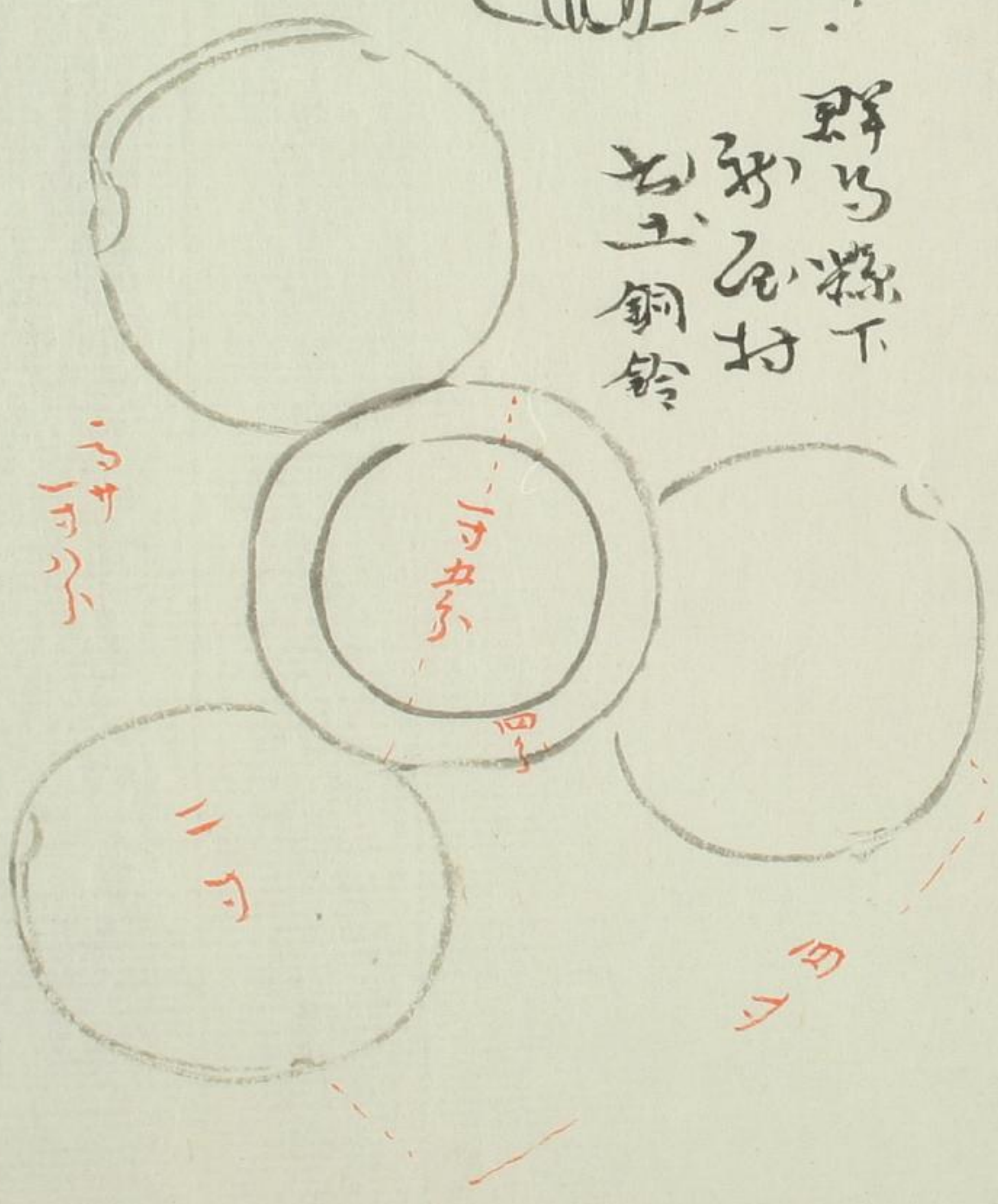
此の
銅
の
形
は
古
の
物
に
似
て
居
る
と
思
ふ

日清日露の戦い
河内山崎の戦い
の
時
に
用
い
た
と
思
ふ
銅
の
鐘
の
形
に
似
て
居
る
と
思
ふ
銅
の
鐘
の
形
に
似
て
居
る
と
思
ふ

六角
銅
出
砂
不
明



群
馬
下
知
石
村
七
土
銅
鈴



樽山金房の蔵

銅
鐘

甲斐の石持

此の石持の形は... 日清の役... 支那人の首級... 日清の役... 支那人の首級... 日清の役... 支那人の首級... 日清の役... 支那人の首級...

甲斐の石持河内... 田中村... 日清の役...

國分村... 石持... 形...

一橋村... 石持... 形...

谷村... 石持... 形...

丸... 石持... 形...

又石物の用... 形...

石持... 石物の用... 形...

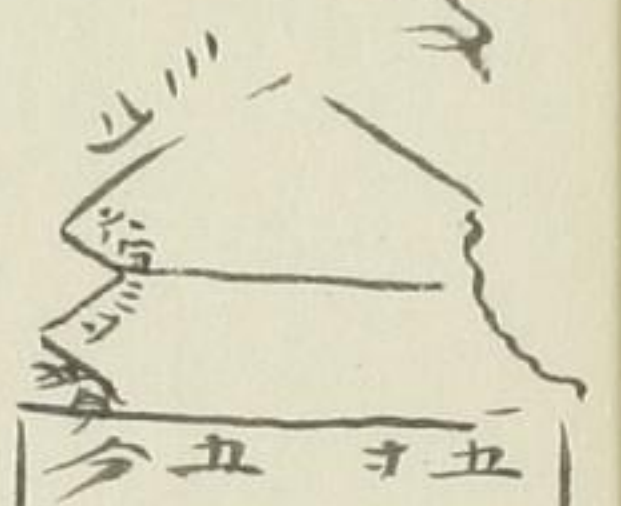
牛島

江戸めい牛島の首をえりて
壁の首を 中ノ橋過り 中壁菅大坪をゆりて
幽霊者 川口とふをいふか 其妻年三の女を
宮城守向ちみを教しちて 埋しとて 此を家の
出番守ちてふりまの羽山守りて 此の世を
みまへん作 たり天保守りて ぬれせり
冷水留所 三角末とて 隆慶橋一ちりて 此の世
葉をふり 此の跡暗み故より 子に 此の世を
決見自の行 禪律者の入と不許りて 手杖を
れがしり
丸の首 材木と通すが 材木の先 否きとぬれり

江戸の道
三ノ丸

板碑

江戸の道
三ノ丸



貞和二年八月二日

寺正三郎 江比打字 庭守村 板碑

天文七年八月

の三枚あり

場 文 明 應 四 月

妙仲 禰尼

五月



延文元年五月

武蔵野中六社遺書也たんが中平場とふ言也
板碑あり又深大寺の三味場と堂より二十程あり
碑ありと

上野馬場高松也子堂あり板碑
北野の正尾久打堂西千三三三
中村と徳寺見と

右野井村道場有差也

正和三年の文明四年のあり

三堂寺あり文明のあり

板碑と打音義也定也後の也板碑ありと

武蔵野一ツ家福あり古板あり
武蔵野武二編あり

上野野原即権持打、支保二年六月の板碑あり

南葛飾即平井村板碑

寛文十一年
長三尺
一尺

六永十廿年
性善禪門

北尾五郎三堂村文山法堂在虎寺、弘勅二年十
の板碑あり

志村更野寺二枚川堂二三丁北火田堂あり
板余あり中尾の山の向、三四枚あり
前の野村



板碑と同形式のものは、
養元二年八月

「
養元二年八月

「
養元二年八月

「
養元二年八月

「
養元二年八月

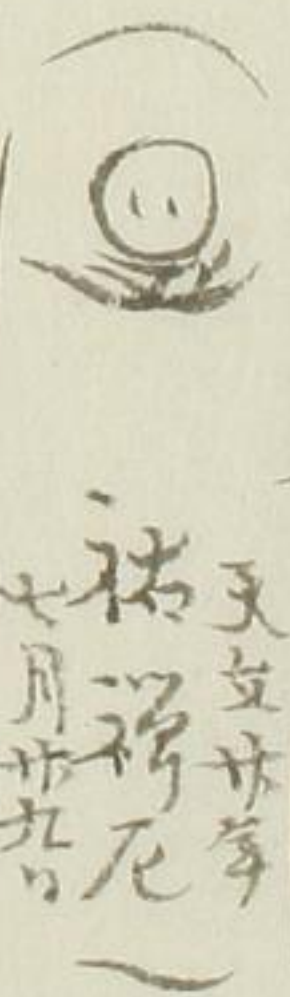
「
養元二年八月

「
養元二年八月

「
養元二年八月

「
養元二年八月

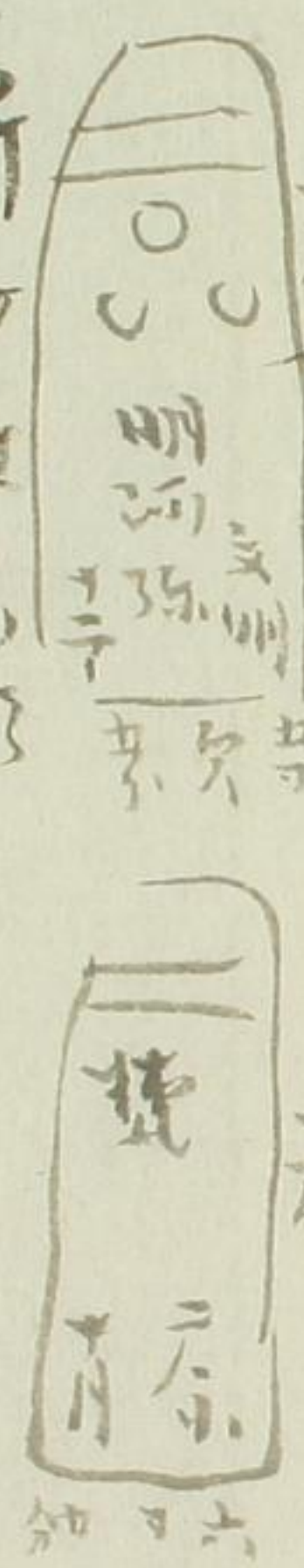
板碑
養元二年八月



養元二年八月
板碑

養元二年八月
板碑

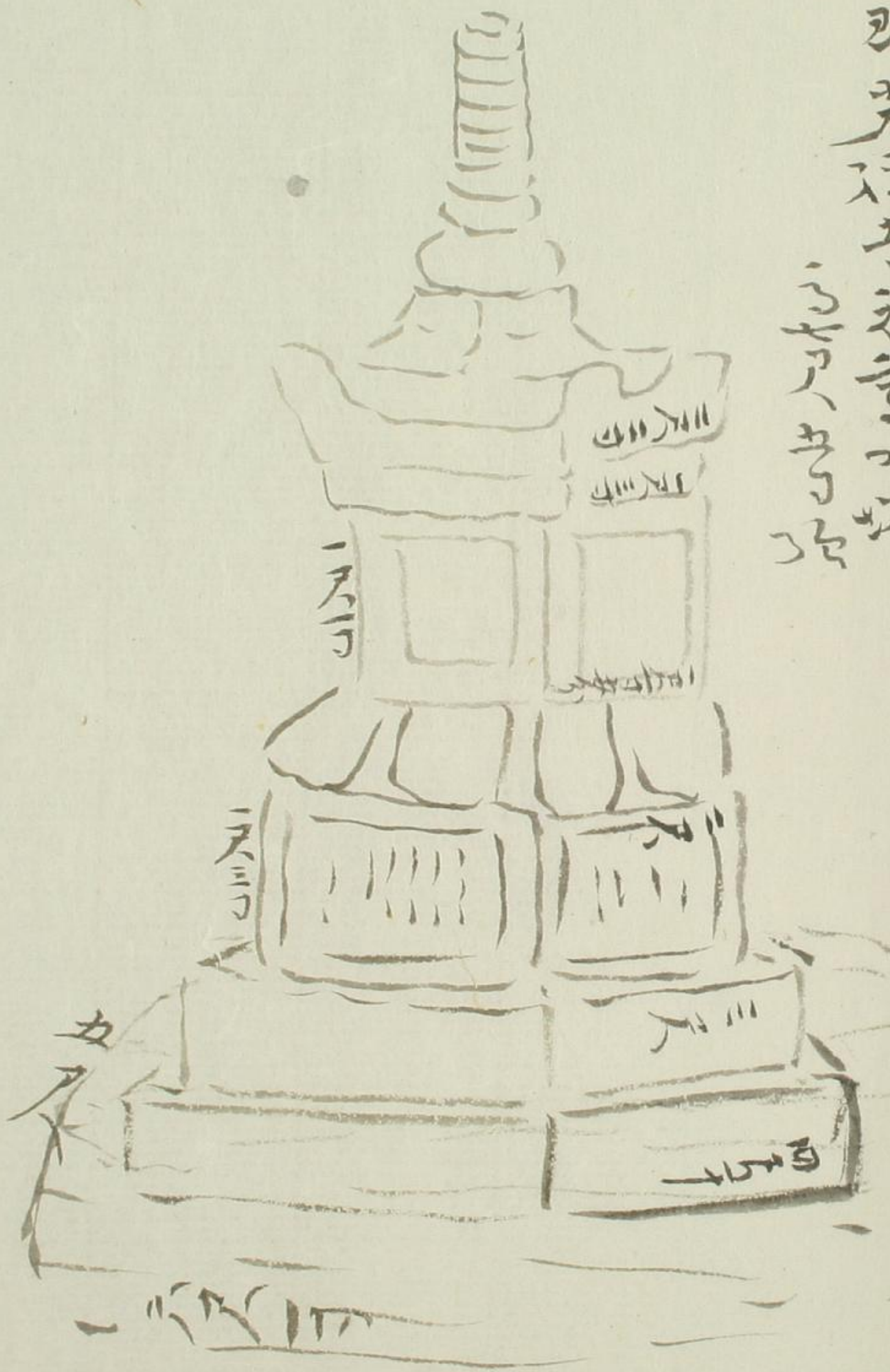
養元二年八月
板碑



養元二年八月
板碑

光福寺の
宝篋印塔
及心下
也一石也

此金剛光福寺之寶篋印塔
一石也

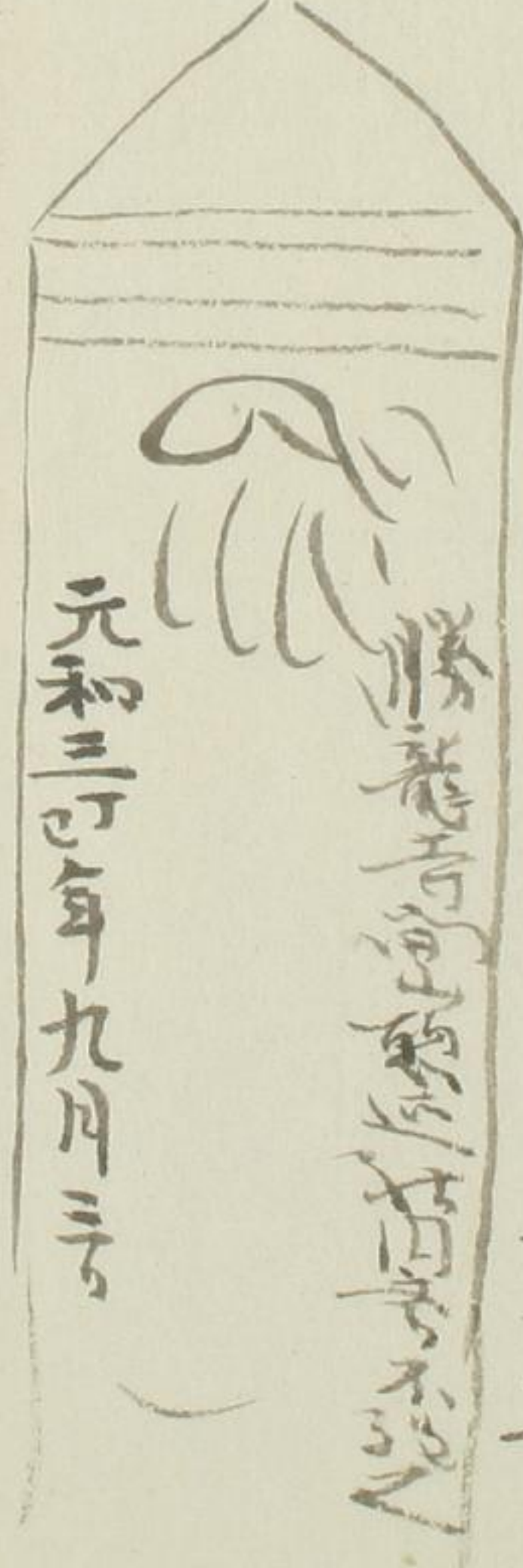


石一石也

板碑

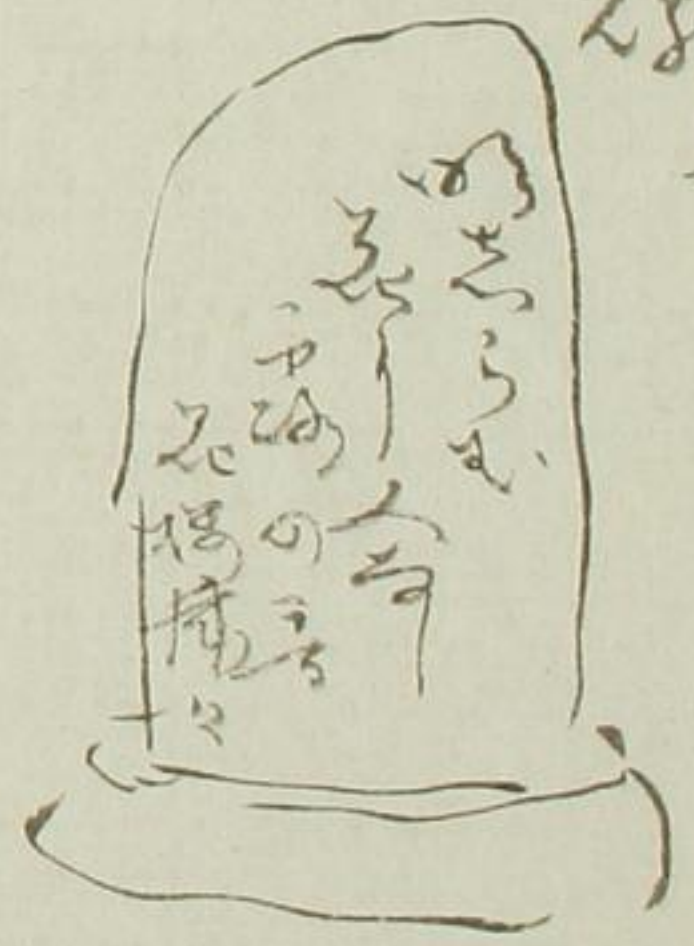
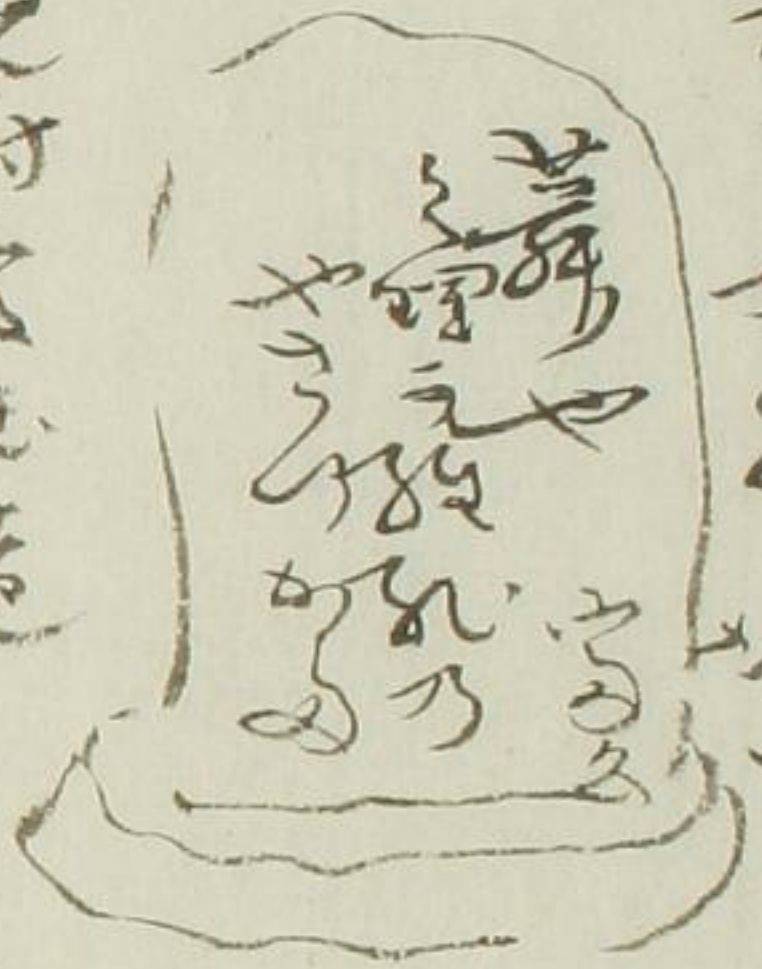
光福寺の
石一石也

大里即寺見村之玉造
亦種之 應永五年
此即大園村之有力之福寺三之身迎佛板碑也
二尺四寸五分 長四尺五分 厚二寸四分 石一石也



元和三年九月三日

須賀前村之石一石也



銀塔 水晶塔



一丈二寸五分

の經三寸五分



一丈二寸五分

交心燈のラビリノカ

前例室蓮印塔也下より法也
 水晶塔 珠玉大八九寸 舍利玉木惣九寸
 舍利塔 一尺四寸一分 中舍利五粒
 銀塔 三寸五分 五粒あり
 六寸八分の四珠五粒あり
 是塔寺寶蓮印塔 銘石南磨藏之字不可清
 根岸及姑清蓮ししあり
 奉造五室蓮印一基

右塔寺者大日本國武州比企
 玉太田四國山光福寺沙門
 鏡空了山元亨參玄佛成
 道日起之誌之矣

當寺大檀那比丘尼妙珊
 藤原光貞朝臣
 施主河内高河

右元亨參玄の 後醍醐天皇ノ三年ナリ
 山崎系光自リ以て堂ノ石ニカミテ
 出玉の塔及て舍利堂ニ塔ノ上ニ
 ナリトナリ 其事ノカサニ 根岸武
 州ノカサニ

古鐘銘

武藏國河那庄
新日吉山王宮

奉鑄杉鐘口長三尺五寸

大槌那乎初臣經重

大勸進河内圓慶

文應元年大藏十月廿二日

鑄師舟治久支

大正真重

板研

三の輪橋土のよば津向寺の三和三年の板研あり
兼王寺 左磨田年の板研あり

三曾橋

牛込馬の首とふ二の組と云なり 組を交馬先年の組歌
小出の組紋歌の五六の支とあり 武也 由井三曾橋在ヤとを
三曾橋とふあり 内も道所在ありとふ人の名をとり
人あり三曾橋の寺あり 而井矢月下つとあり 寺あり 水下

大友の地

牛込赤坂甲の組大友の地と名ふるに似しと自然石
に大友の地とありしと明弘三年の地蔵の地とあり

大友寺

新布寺村所あり 又真寺
新布院也山工を巖寺也あり 寺塔ありと 寺あり

持山丸三の墓

吾町の日蓮宗の寺に陶器の祖有り 持山丸三の墓
あり 寺名せらるる
寺あり 田の墓あり 境あり 寺あり 持山丸三の墓

持山丸三の墓

是ありふれ、自在庵、秘徳の著る、秘徳平生四季句
と刻せし碑とあり、このなる

六国をたす

千住、こころをたす、秘徳あり、六国をたす、秘徳あり

秘徳あり

三、輪、善、永、寺、秘、徳、あり、秘、徳、あり、秘、徳、あり

秘徳あり

はる、秘、徳、あり、秘、徳、あり、秘、徳、あり、秘、徳、あり

秘徳あり

秘徳あり、秘徳あり、秘徳あり、秘徳あり、秘徳あり、秘徳あり

秘徳あり

秘徳あり、秘徳あり、秘徳あり、秘徳あり、秘徳あり、秘徳あり

秘徳あり

秘徳あり

秘徳あり

秘徳あり

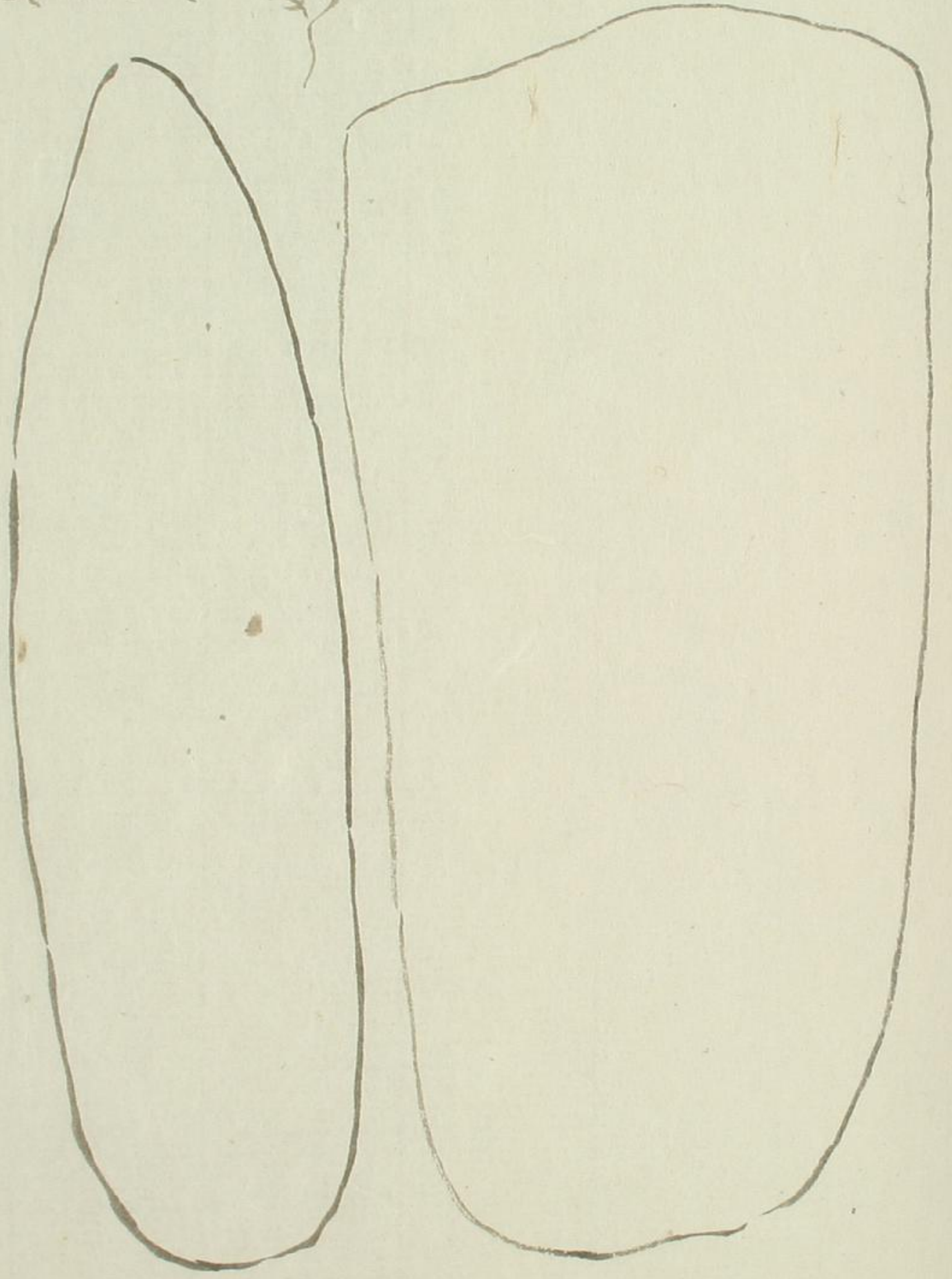
秘徳あり

秘徳あり

秘徳あり

秘徳あり

秘徳あり



武乃古見阿瑪陀堂鐘

武乃古見即大車御堂田村

阿瑪陀堂鐘

建武三年卯卯月九日

大工金判景強

大禮那沙妙惠

并女大北至平交女

武乃現今寺多乃即久下田村水谷幅義抄り娘

都幾山慈光寺鐘

實元三年己丑月十八日

武藏國阿肥庄

新田吾山王宮

文應元年大歲十一月廿二日

武藏川越南所養壽院

武乃比金那野本村利仁山無量壽寺鐘銘(惜之)

古鐘燒失幸本根岸武乃藏

奉鑄鐘百二寸七寸

野本寺

諸行無常

是

六二尺



右紀忠清并協氏女为大施
主为佛法興隆为象生
科益也

建長二年即二月十日

武刀足立即智海山鐘次

武刀足立即鳩井御

智海山

依慈母命奉鑄之

正安二年即二月十日

大工源景行

武刀入東即久米御

大龍山永源禪寺

應永廿九年即九月初吉日

經筒

武刀比金即平乃村平法寺經筒
武刀比金即平乃村平法寺經筒
武刀比金即平乃村平法寺經筒
武刀比金即平乃村平法寺經筒
武刀比金即平乃村平法寺經筒
武刀比金即平乃村平法寺經筒
武刀比金即平乃村平法寺經筒
武刀比金即平乃村平法寺經筒
武刀比金即平乃村平法寺經筒
武刀比金即平乃村平法寺經筒

武刀大里即鑄形者定寺松井

納奉 文祿五年 四月八日

古鐘

武刀加高玉即龍輪御岩分光君山親起
武刀加高玉即龍輪御岩分光君山親起
武刀加高玉即龍輪御岩分光君山親起
武刀加高玉即龍輪御岩分光君山親起
武刀加高玉即龍輪御岩分光君山親起
武刀加高玉即龍輪御岩分光君山親起
武刀加高玉即龍輪御岩分光君山親起
武刀加高玉即龍輪御岩分光君山親起
武刀加高玉即龍輪御岩分光君山親起
武刀加高玉即龍輪御岩分光君山親起

古鏡

武刀若見村
武刀若見村
武刀若見村
武刀若見村
武刀若見村
武刀若見村
武刀若見村
武刀若見村
武刀若見村
武刀若見村

良梨乃御 永享十二年 六月 日ナリ 武蔵野 林大 惣歌
ノ者必 無三 徳アリ 同家ニ 在リシヲ 須ク 及父ノ 手ニ 示リシト

永享十二年 六月 廿二日 宗吉 (武吉口熊谷 或人持行 火出カカリ 燬セユ)

武蔵比企郡 福田村 大字 福田 金銀ノ 銘

明應四年 卯二月 十八日 檀那 同所 同月 十八日

武蔵比企郡 三堂村 山内 宗長 院 弘治二年 六月 廿二日 銘
六天無量堂 佛伽 耶 勞 茶 各 不 雜

弘治二年 丁卯

逆修 永享 永河 而 和 木

三月 十一日

右 異年 弘治 勤三年 永正 三年 丁卯 一ノ 説アリ

新父 即 大 河 原 村 大字 山内 宗長 一ノ 古 鐘 二ノ 命 轉

三ノ 命 轉 古 鐘

正慶二年 三月 廿二日 朝 至 尼 蓮 河

上 加 藤 野 郡 板 倉 郷 田 光 寺 鐘

武蔵比企郡 八幡宮 鐘

文明 十一年 八月 九日

武蔵比企郡 八幡宮 鐘

文明十三年四月日

大河原市堂

妙法山

津蓮寺

右三年一鐘一刺ニアリ

古鐘

高尾郡養父寺鐘

貞觀十七年八月廿三日

京都因幡堂鐘

永享五年六月廿日

河内是樂寺

應安五年六月廿日

笠置山般若堂鐘

建治三年十月二日

安藝多伊郡岐首鐘

治承元年二月

北野宮鐘

延徳二孟夏吉日

古鐘

古鐘

大和南川堂銅燈臺銘

弘仁七
久安六年七月十九日

天正の
此鐘の
二卷

京都日守坊住持藏

鉄燈籠 天正二年

石燈籠 天正二年

右二燈籠 天正二年

昔時此宝珠、度是九年、皇了臣、片、其、新、以、建

立了、多、ノ、飲、了、リ

治承前卯父藏古写經

奉祀入武所牛込御赤城大明神

古鐘

古鐘

大般若波羅密多經の卷第十四
又安甲子霜月七日釋尊告諸

重忠の遺書

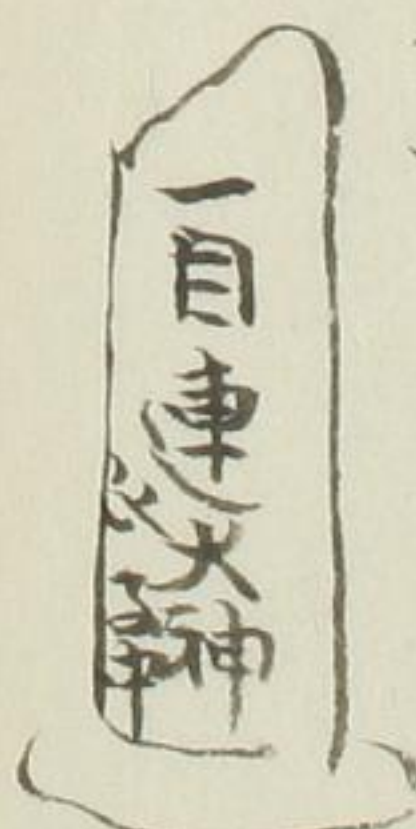
重忠即昔見の神社に重忠の繪馬あり見せしに
二天の形を画し今見之木月三の夕やうに
箱の形ありてはあはれとて其の神心やうに
武蔵國大里郡吉見

天照大神より御神前新一而

建久四年九月秋父在司重忠
寄り也

一月五日

大里即吉見村(行)る大里ノ村とあり其下
新石二門建ち申と到せり
此の信作すとのと覺り



一月五日
重忠の遺書
武蔵國大里郡吉見

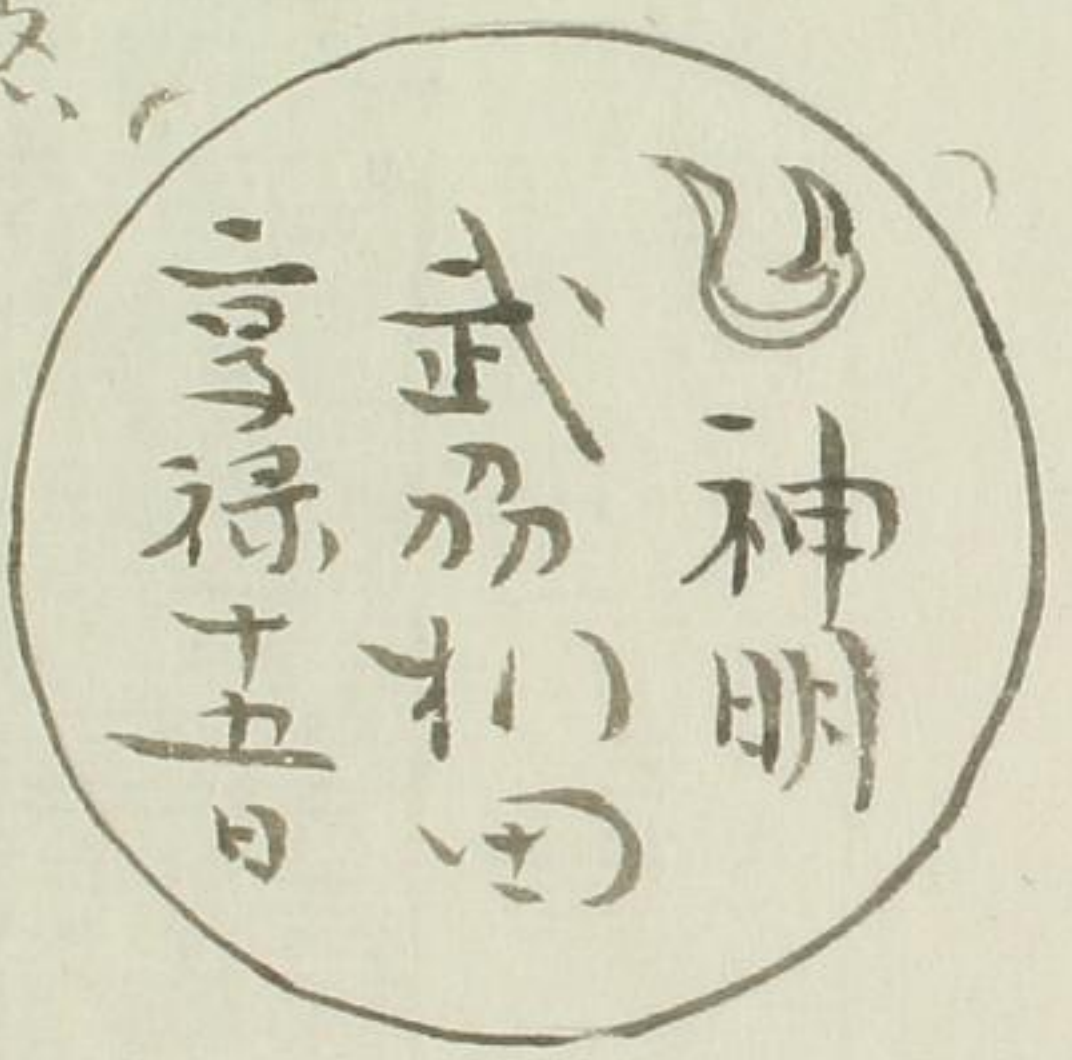
重忠の遺書

根月武重の遺書より其意を
景雲二年四月二十日の略か

之二日廿二
大示

武佛

同以右意武佛

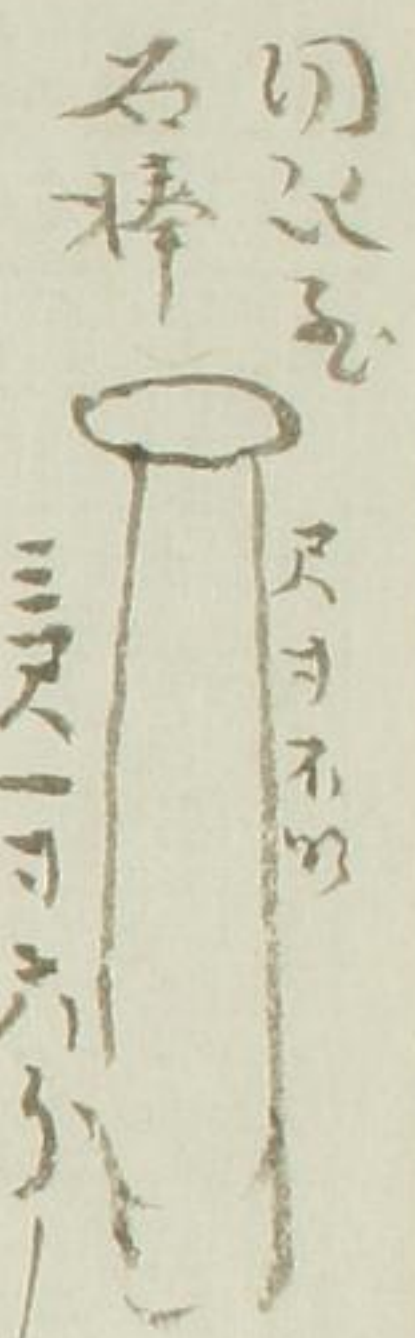


武佛

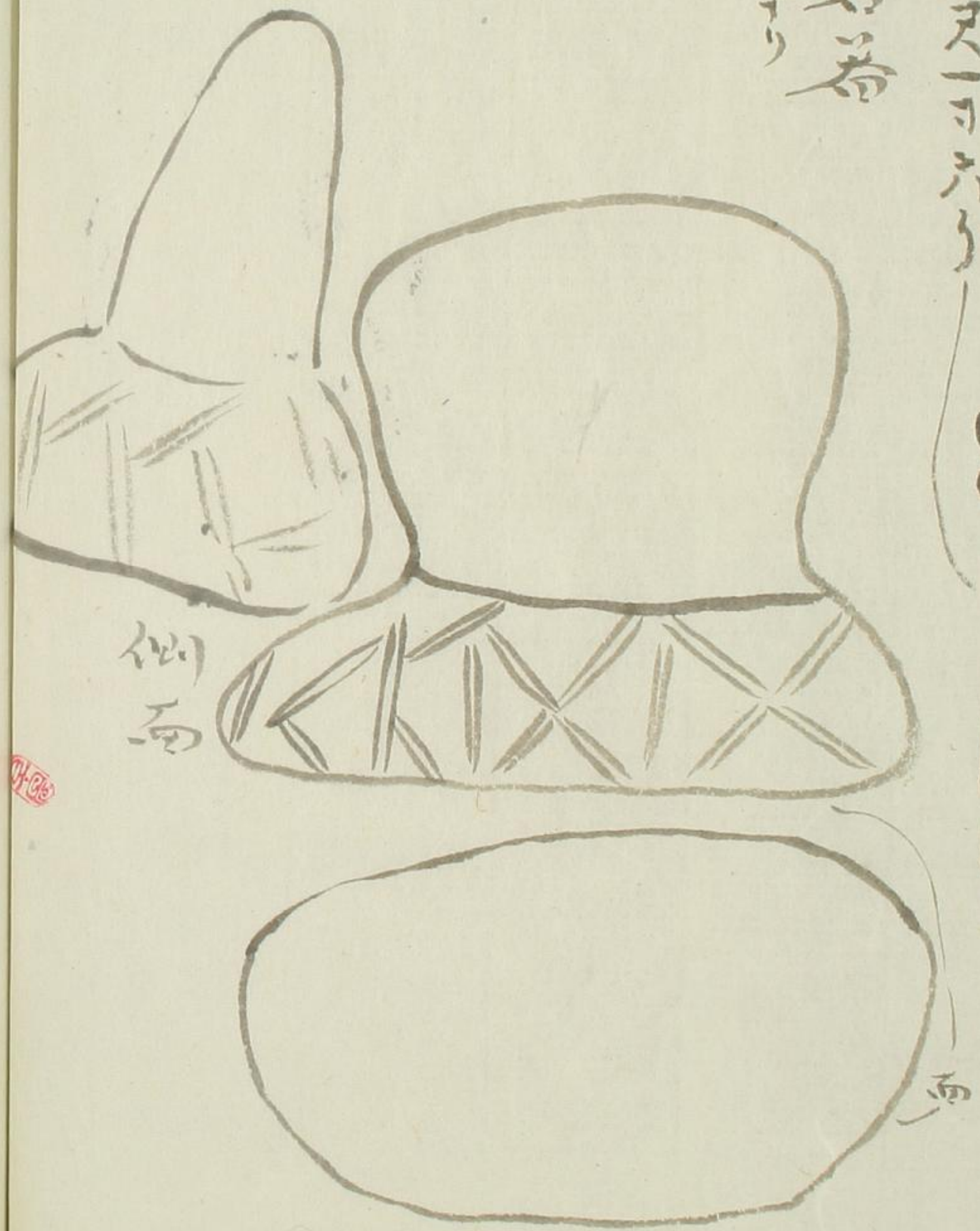
同以右玉の額に
上総州保土庄山中御明王尊左近由事
應永十年秋十二月廿六日武勝村

石指

石指



石指
石指
石指



永樂

直末

巖

直刀

根厚次古物
永樂
直末
永享七年
巖

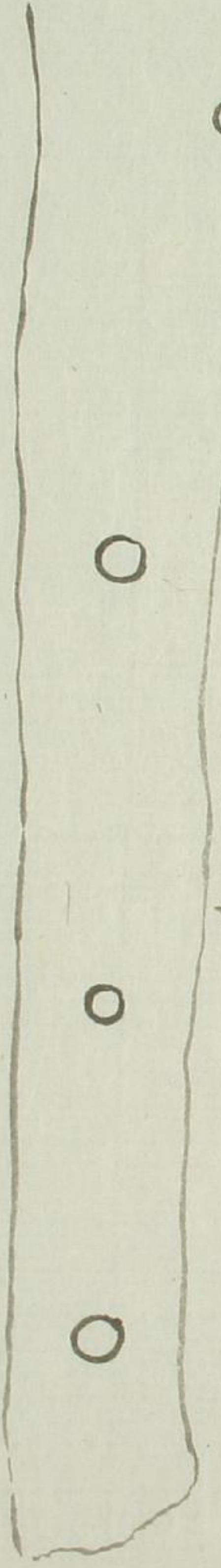
九月日神
直末
北御中

貞治二年

雄徳山

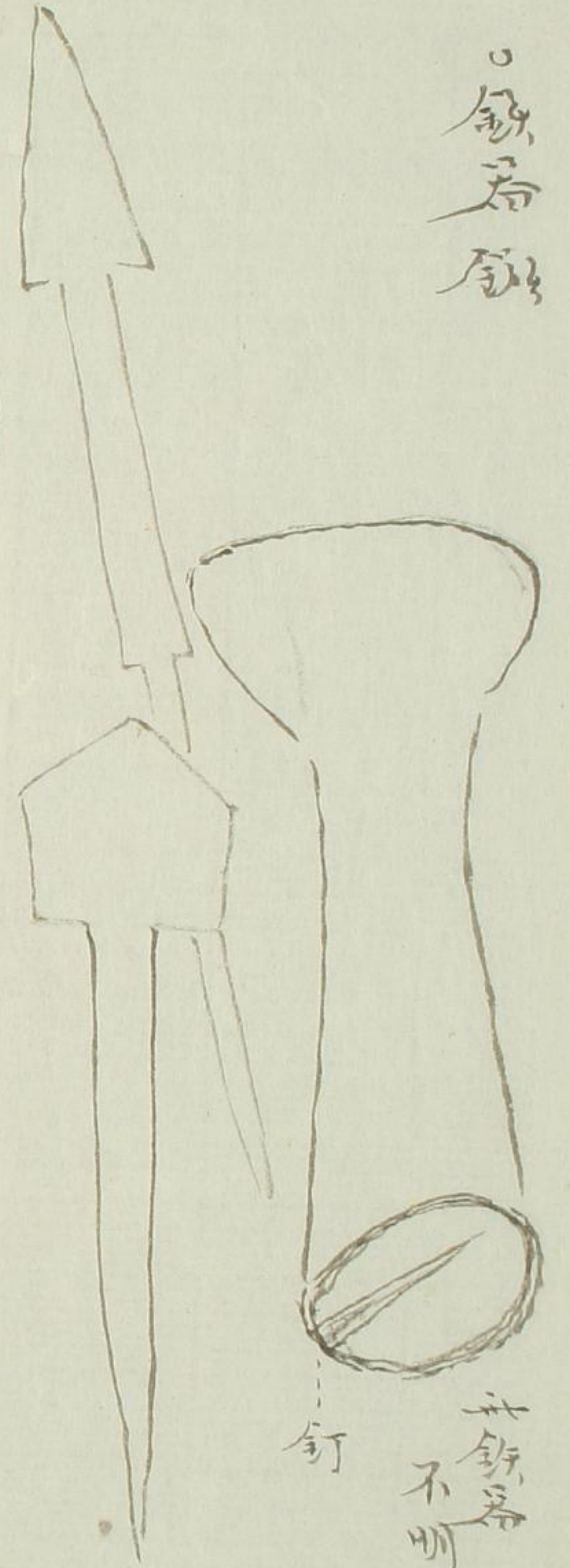
(男山ノフヤリト)

直刀
三目釘穴アリ
大団ノカシ



鉄器

鉄器



鉄器不明

鉄器

鉄器



次田御印

寺山印

古印

大里即志見村

大里即志見村... 雪... 三圍...

大里即志見村... 雪... 三圍...

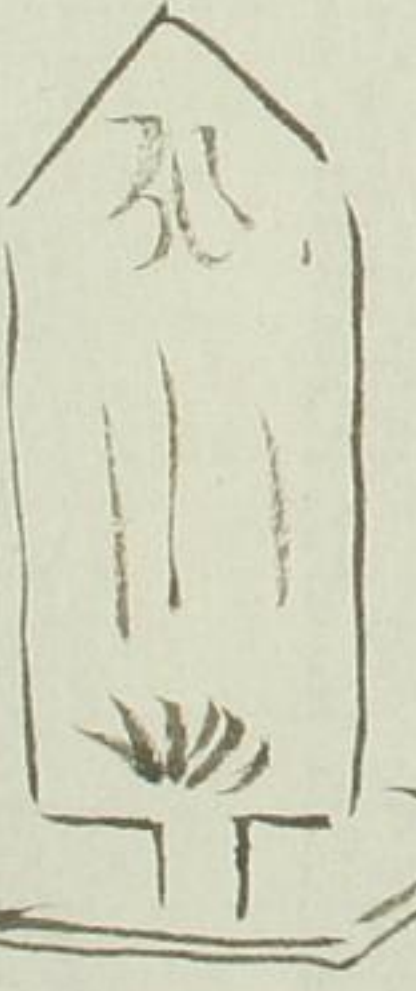
大里即志見村... 雪... 三圍...

大里即志見村... 雪... 三圍...

大里即志見村... 雪... 三圍...

大里即志見村... 雪... 三圍...

大里即志見村... 雪... 三圍...



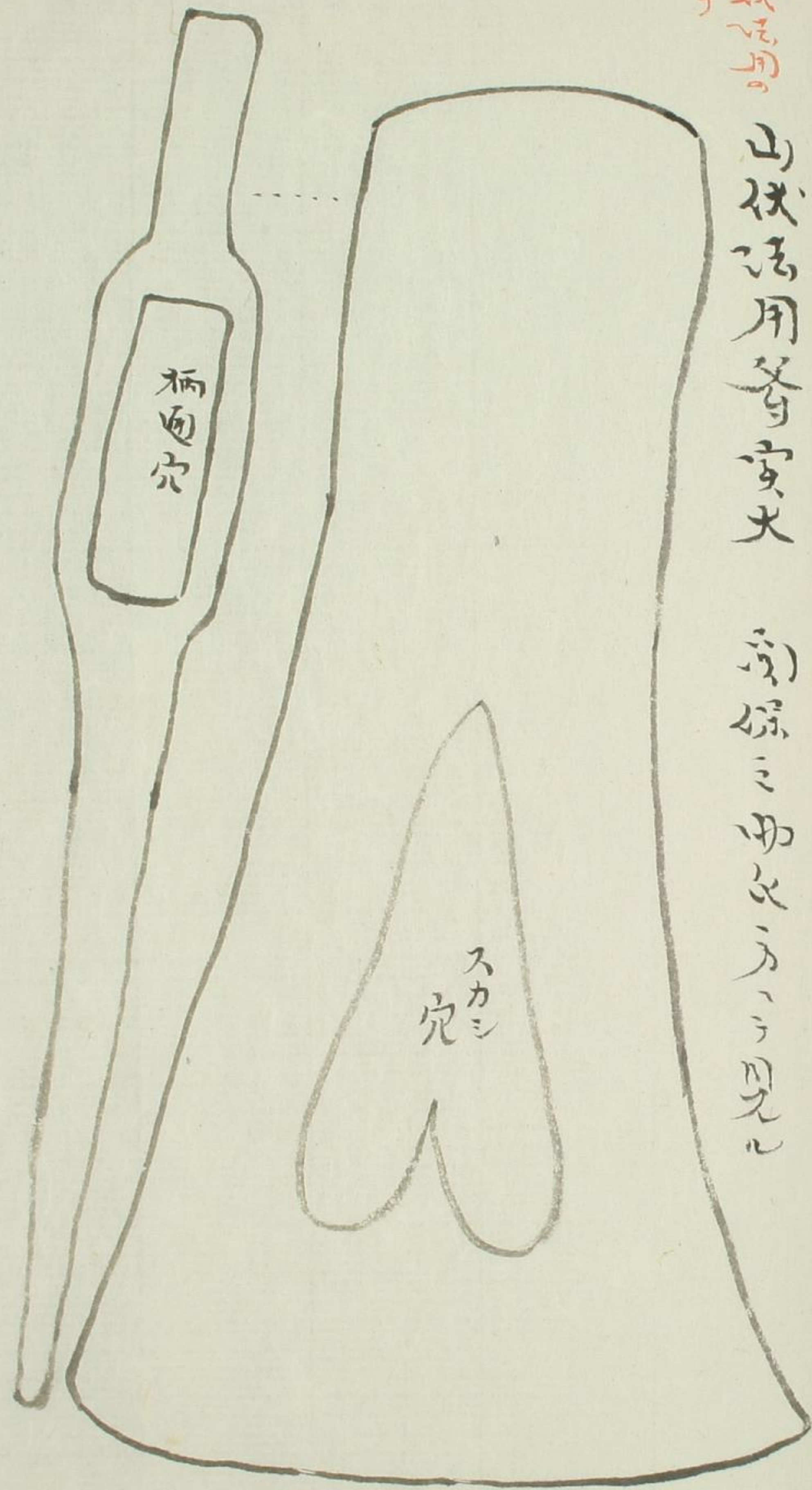
横端の板研

石鏡

板研

墓志銘

河内右川郡妙見寺藏墓志銘... 墓志銘



山伏用
袴

山伏用袴賣大

刺繍ミ物ハカニラ目元

維新三年歲次甲子朔癸酉
 所冬心延四位下陸奥國梅津使
 兼守若守副將平動而等紀
 諱廣繼之女吾繼其志

河内高屋村ハアリトラスモ其心銀

故正六位上常陸國

大目高屋連牧人之

墓寶龜七年歲次丙

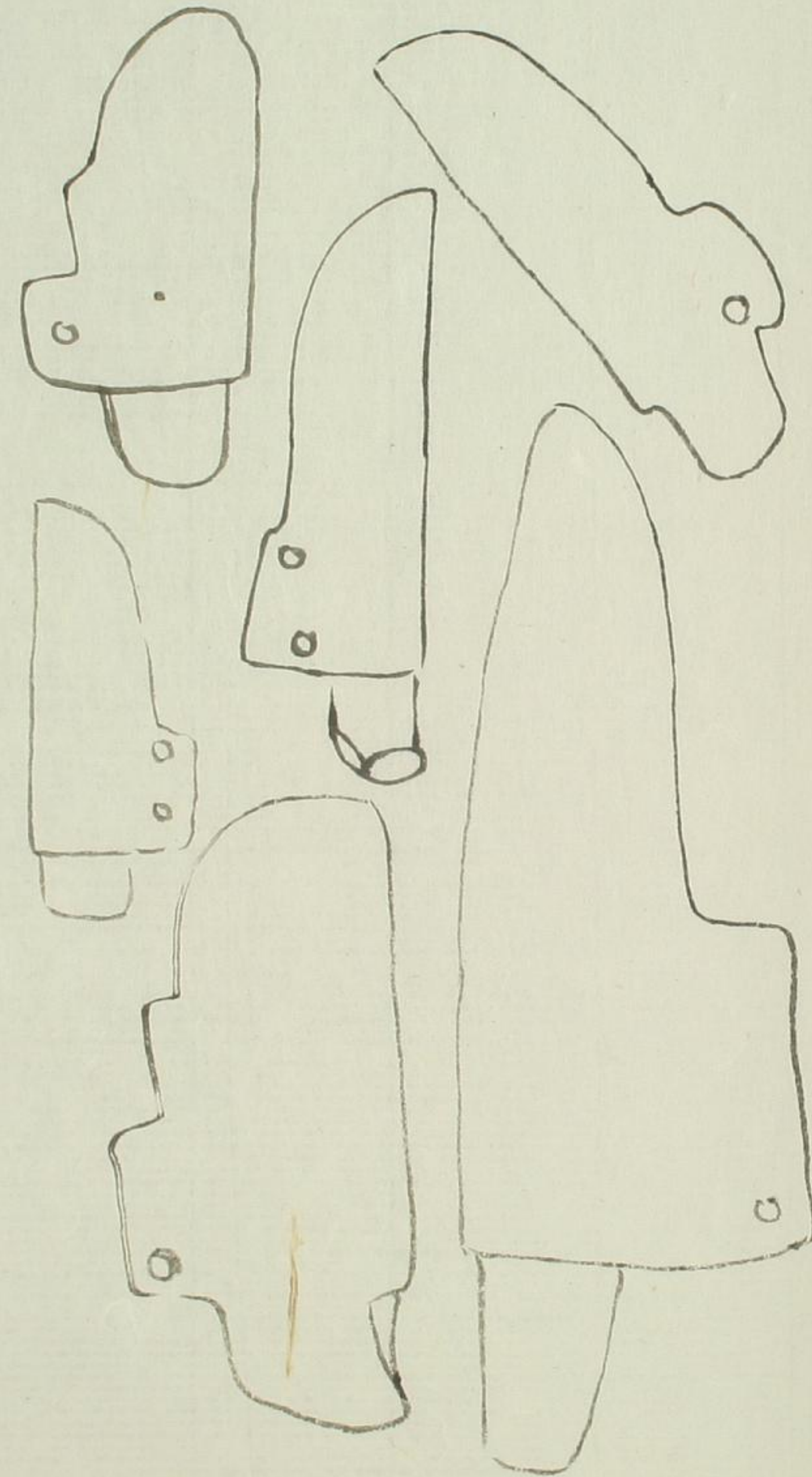
辰十一月七日朔廿

八日壬午葬

善
研
記

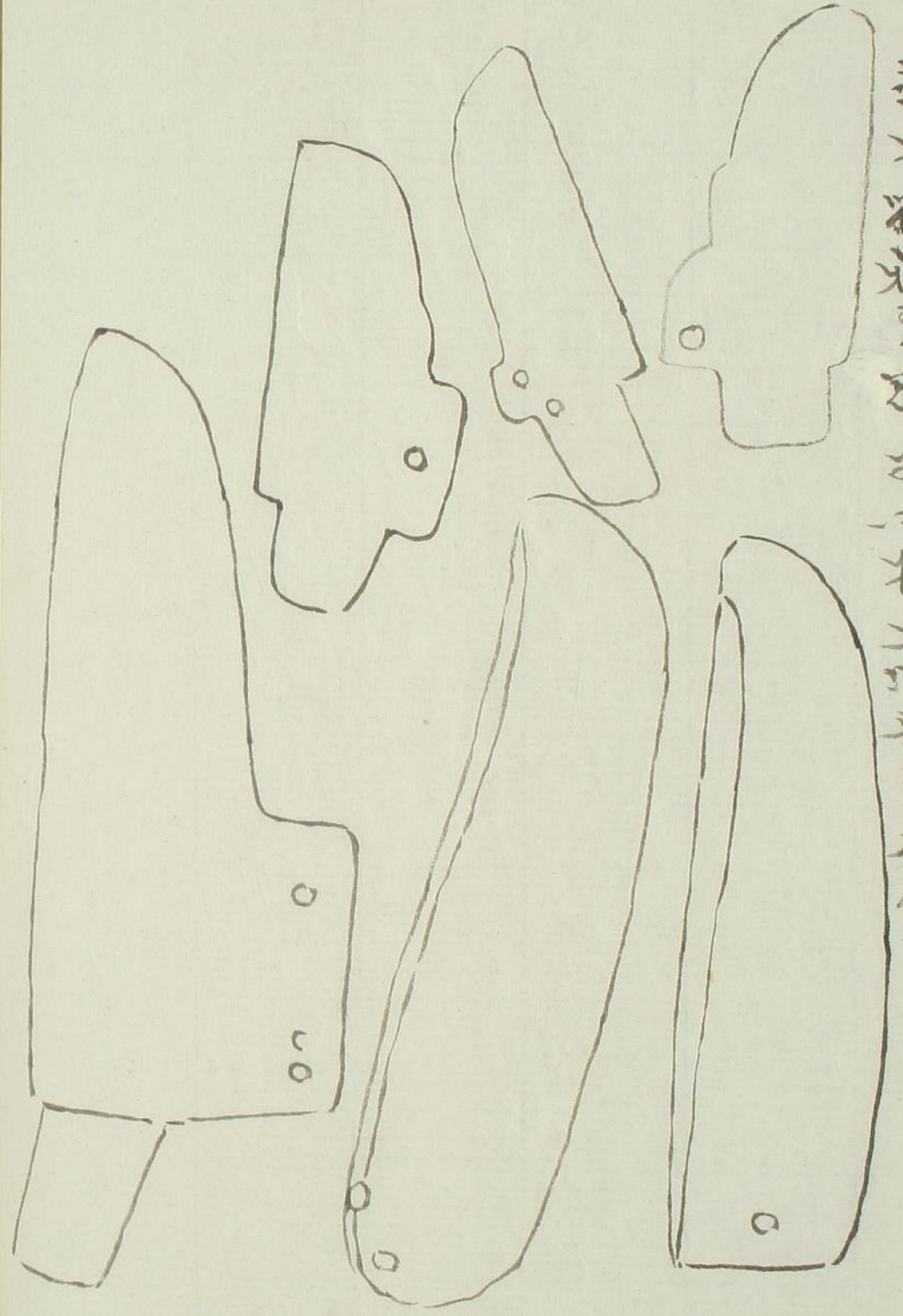
武藏府中鉄佛銘

大和道公河孫陀佛好造方工乃
右志者造者二親行嚴行善言乃



名
刀

茨木縣瑞雲即安中村大塚寺受石小刀



はらこせ
せーせ
せーせ

去り家生字号刊各本諸一五二頁
神像也

貞長五年正月十八日
御披露初日
此御件玉尊より一丁御西南谷より出たるモノニシテ甘
栗と澤しおかりしモノニシテ打込中へ入れしモノは出せし
モノニテスズ鉄御件あり三社の社也ありしモノハ御件
也
此御件玉尊より一丁御西南谷より出たるモノニシテ甘
栗と澤しおかりしモノニシテ打込中へ入れしモノは出せし
モノニテスズ鉄御件あり三社の社也ありしモノハ御件
也
者としてそれなるも否也

和泉の泉路紅い苦り神像ヲお納所ありし而新
余ありし其申こり御件御
古代のものなり

植輪人形：就ヲ書以籍、心ヤ一ヤ

玉膳向

寛政十一

特林漫録

寛政十一

理外地筆

寛政十

信濃高野録

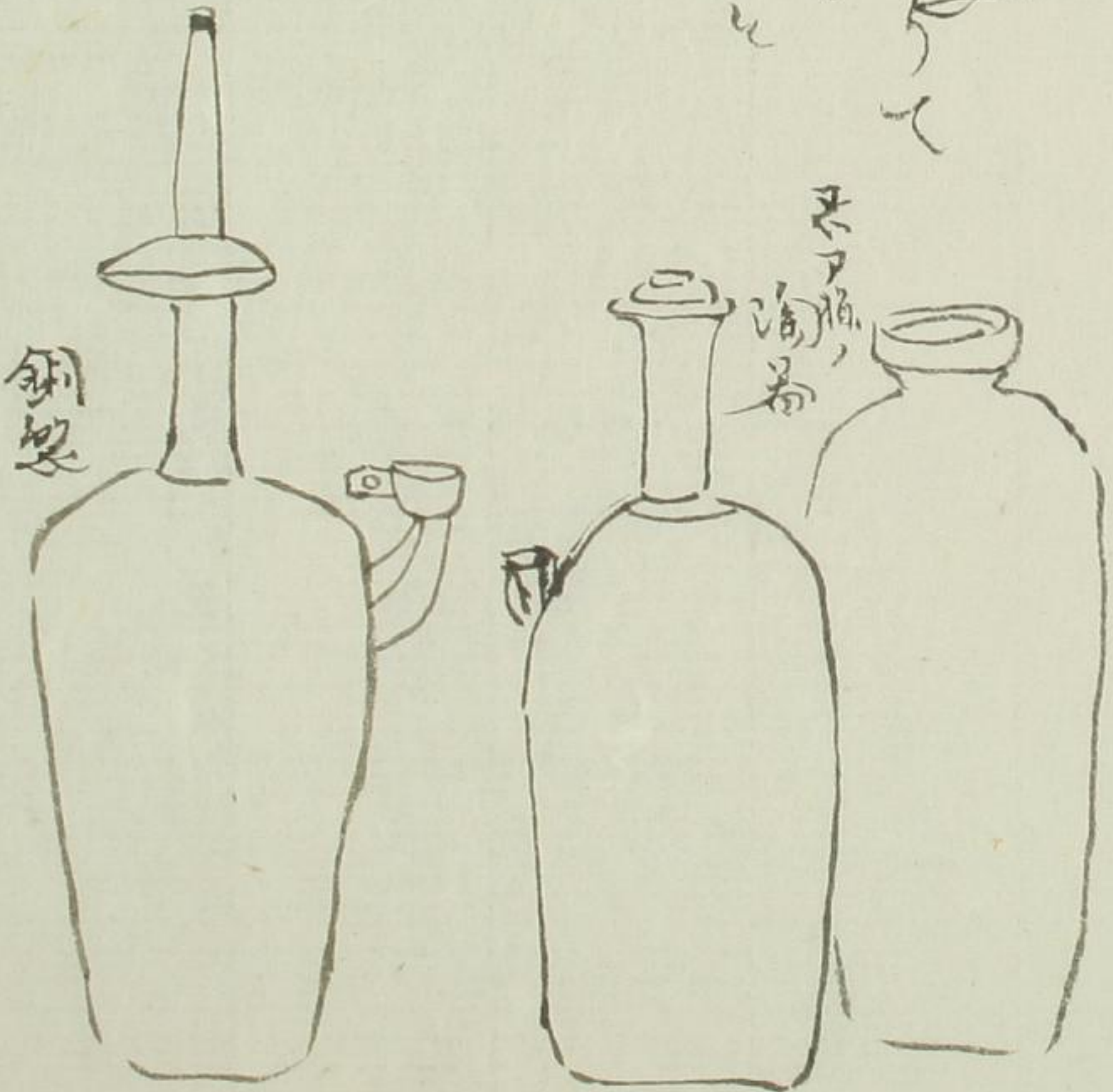
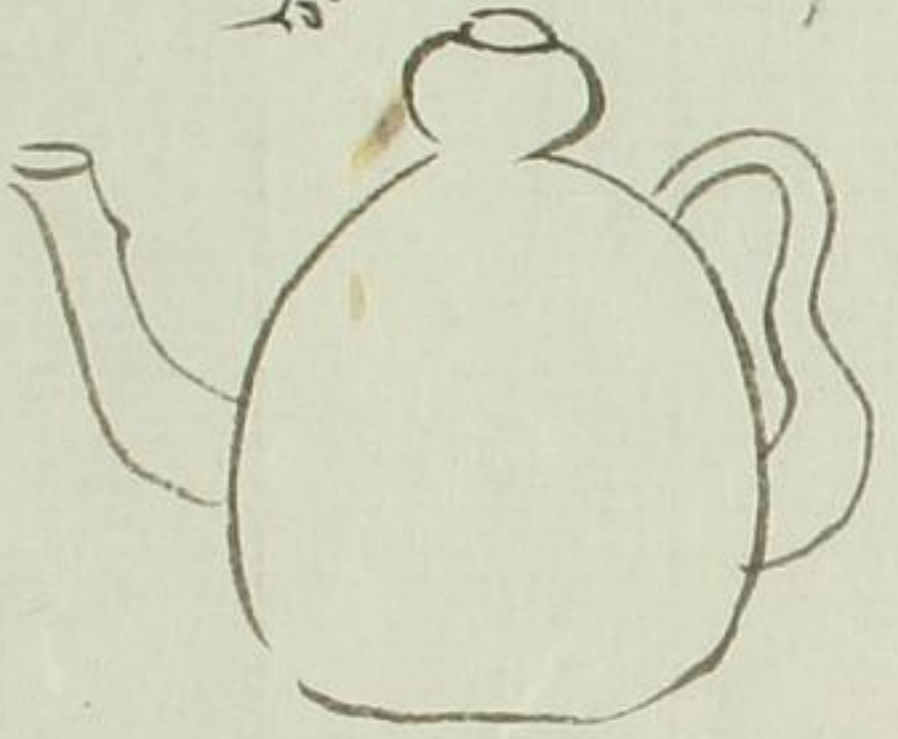
為就
二成衣服考
めら五

里見の針
下総将の七人
武史

武初西多摩郡

三里村字三石

陶器



銅製

陶器

陶器

三里村
の
陶器
の
名
を
考
へ
し
た
り

江戸の御用

品

品

是五郎春開村大工深作...
いさ、いらま、中、果、子、あ、り、と、り、と、ら、こ、石、と、ふ、板、碑
あり、と、錠、殿、様、錠、殿、様、と、ふ、中、お、あ、り、と、り

江戸の御用

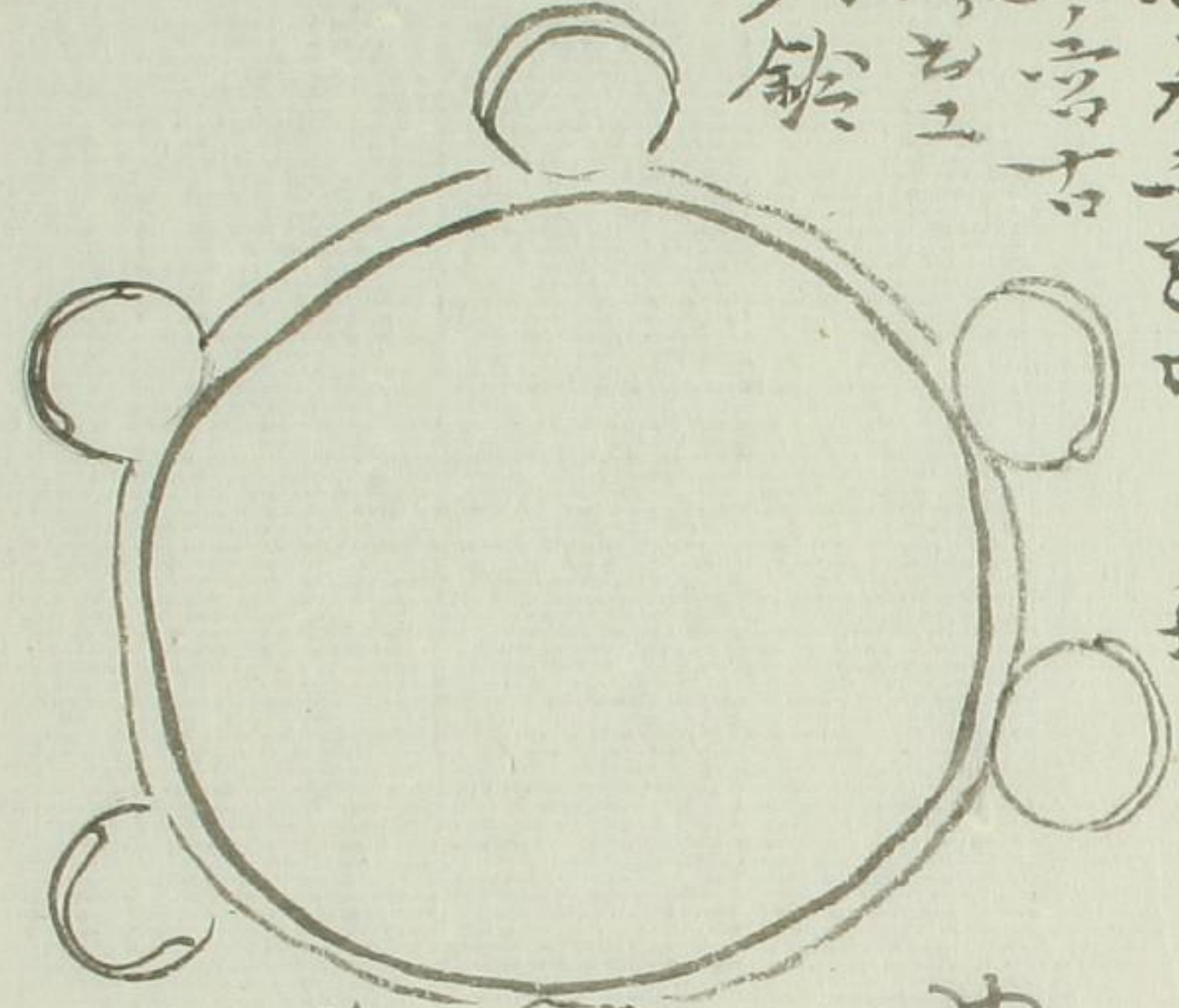
月里行人坂下而姓...
月里行人坂下而姓をてはばや、り、み、か、ぶ、成、康、公、と、大、久、保、
彦、左、衛、門、の、子、げ、を、念、せ、り、け、成、と、中、お、あ、り、と、り

江戸の御用

月里の御用...
月里の御用... 先、達、の、御、用、を、あ、り、と、り、成、就、せ、り、と、
物、也、と、り、と、り、の、御、用、を、あ、り、と、り、成、就、せ、り、と、
え、り、と、り、と、り、の、御、用、を、あ、り、と、り、成、就、せ、り、と、
の、石、川、の、御、用、を、あ、り、と、り、成、就、せ、り、と、
あり、と、り、と、り、の、御、用、を、あ、り、と、り、成、就、せ、り、と、
成、就、せ、り、と、り、の、御、用、を、あ、り、と、り、成、就、せ、り、と、

錠

相、易、中、即、此、々、多、村
三、言、古
境、也、二
六、錠



佛、玉、の、錠

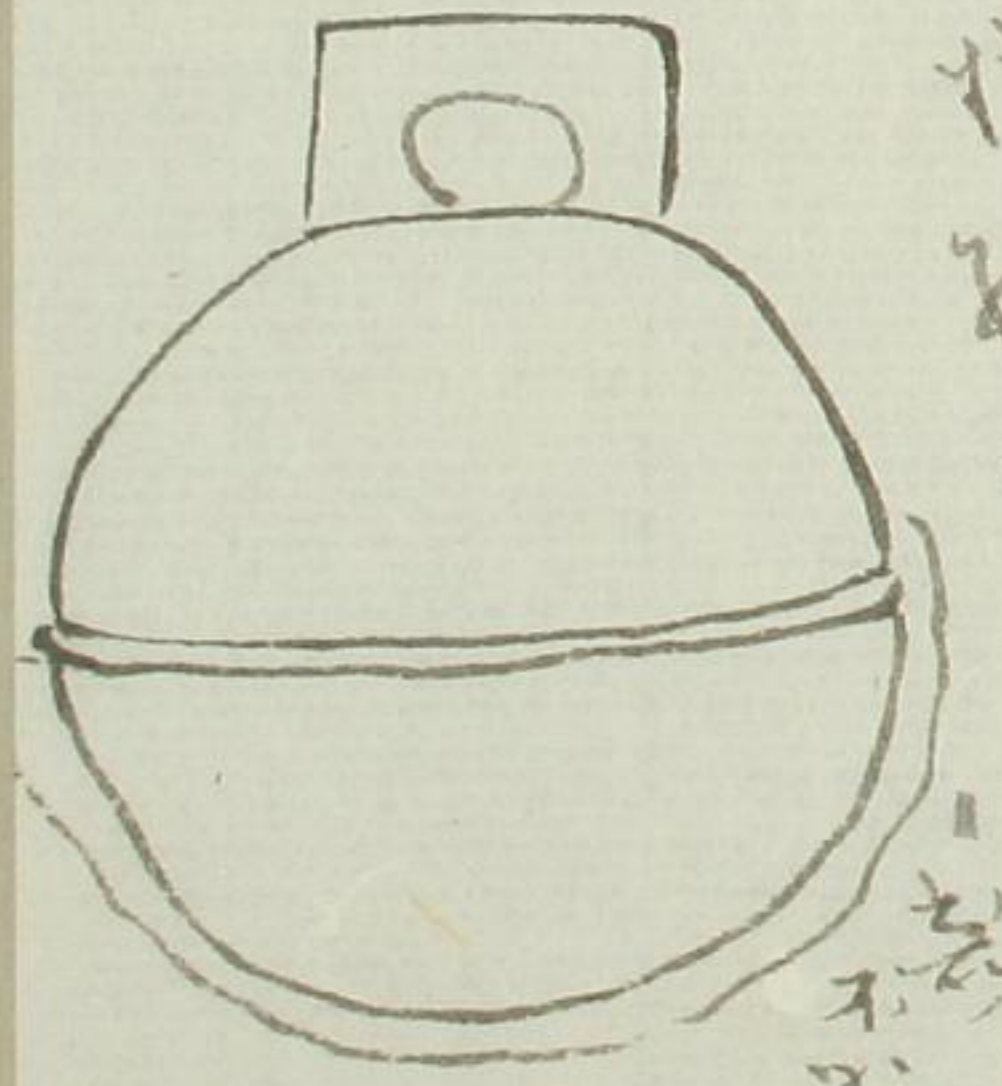


佛、玉、の、錠

佛、玉、の、錠

佛、玉、の、錠

佛、玉、の、錠



佛、玉、の、錠

家根形板研

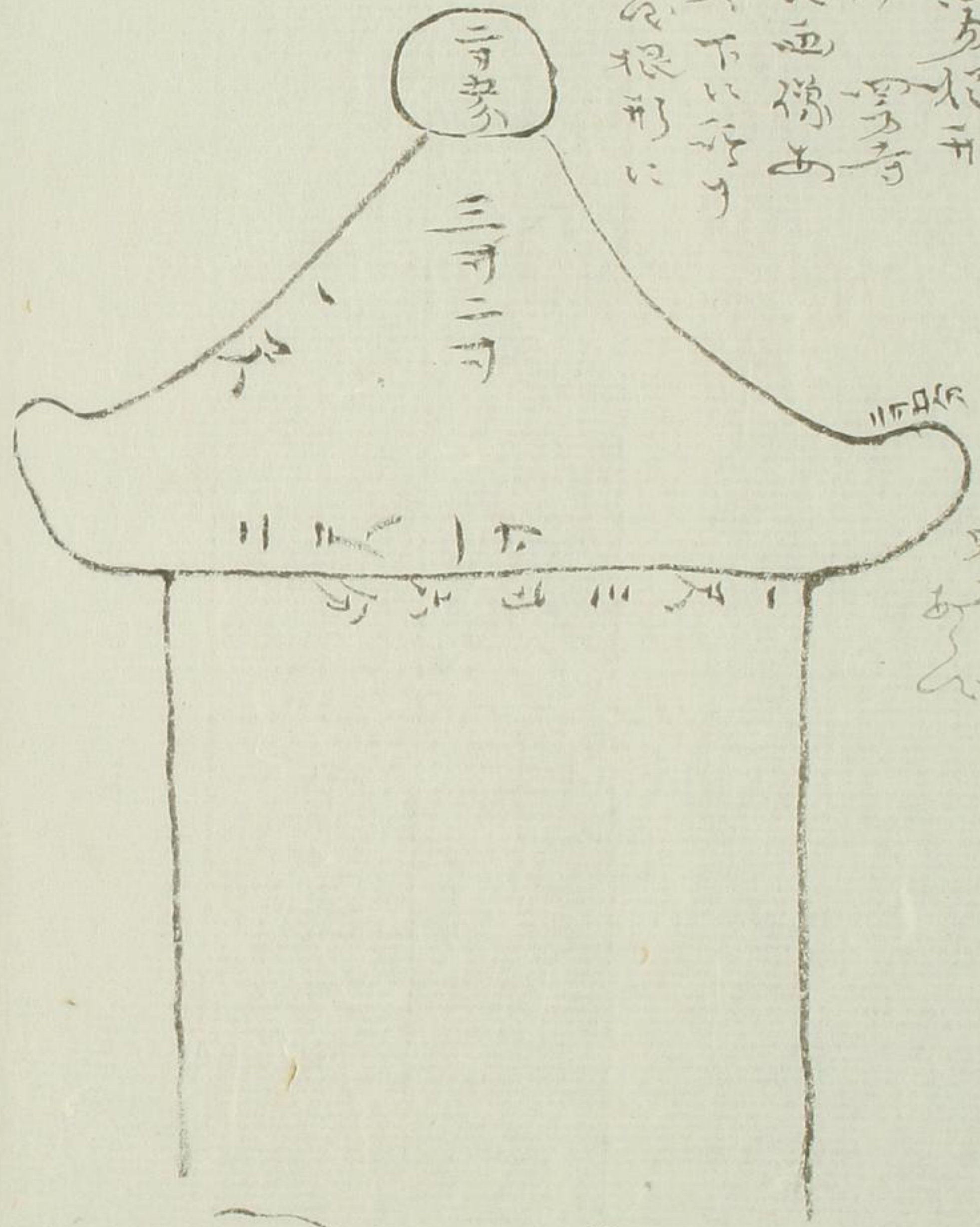
板研に、家根形

ありて、武刀加、

断研、駒、蛇、画、像、也、

一、枚、石、は、て、根、形、に、

別、石、



雲版

東京府下志村の二知を村、菅田宗子、知を山
田福寺とあり、熊野権現より、下、龍、西、南、此、寺、明、徳、二
年の雲版ありと

鐘

武刀加、玉、即、武、宮、社、前、掛、鐘

新、朝、武、州、大、田、三、庄、鶴、山、所、願、成、就、文

長、祿、二、年、八、月、吉、日、管、重、水、白、

又、一、口、施、主、河、野、藤、内、五、下、切、白

武、州、大、田、三、庄、鶴、山、大、明、神

文、安、二、年、七、月、廿、四、日

葛飾八幡宮龍歌、刻シテ、元年、龍鐘銘外ニ、

應永二十八年
三月十一

庭園の名高ニ、向柳原、北浦、成ノ、右燈籠、火口、也、形、

應永廿三
十二月廿二

後那ニシク思フ

州乃初五天堂鐘銘

州乃初鐘倉勸榮山
五天堂念堂鐘一口
當住寺賢義

願主比丘繼純
且那平成原
山工滿吉

應永十二年三月十三日

州乃星谷寺鐘銘陽文

州乃
奉鑄 鐘一口
星谷寺

嘉祿三年正月廿一日
大勸進金剛佛子 勇三
大檀越沙弥 西朝
大檀那源臣 信綱
大工原 善國
勸進金剛 善統

北浦
石燈籠

鐘

初卯大儀高来寺鐘銘

奉出鐘

高来寺鐘 四百人

奏内藤光信
少藤光信
少藤光信

別當阿南梨

弘安十一年卯卯月廿八日

大工又和松守物部國光

聖王即始下村より石巻敷出又弘生式より多くあり也

武蔵のミカサ社あり心持の道より青白の松葉底の焼玉の祝

武蔵のミカサ社

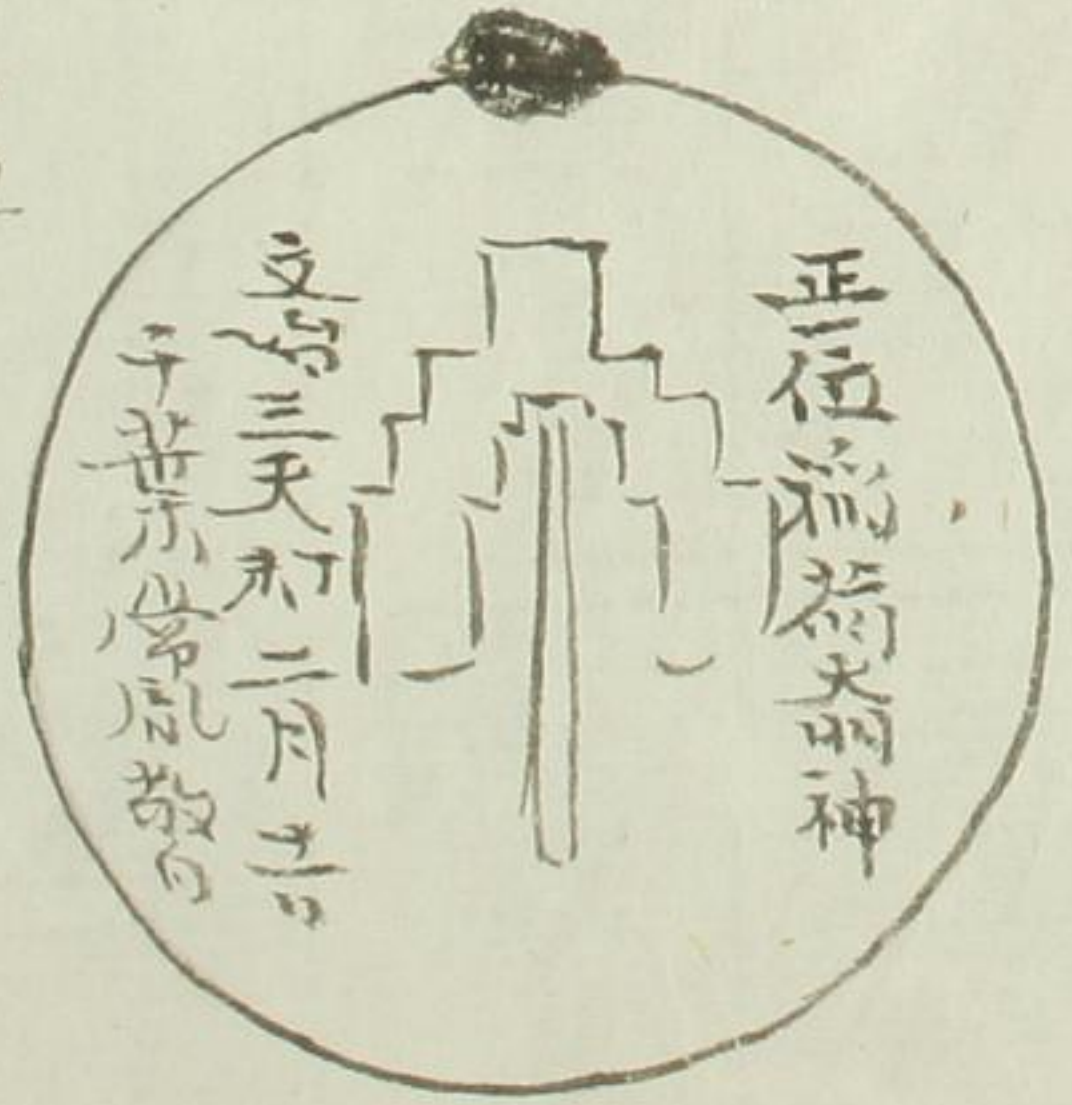
聖天院

白鷺明神

この三つは祖先の墓とす

白馬の銅の白毛ありてを思ふ

千世常胤の病を枕佛とふとの



九折の古坊脈大陸方面より多くて

枕佛

古坊脈

武蔵のミカサ社

石巻敷出

後徳の石人の
子と記す事

古き物ありしに
義州の古墳に
如大知 東武古墳
伊麻カ 少く
馬由 古墳
古墳の古墳
後徳石人の
玉渡 随筆
中條日記

如古日録

後徳将軍

経筒

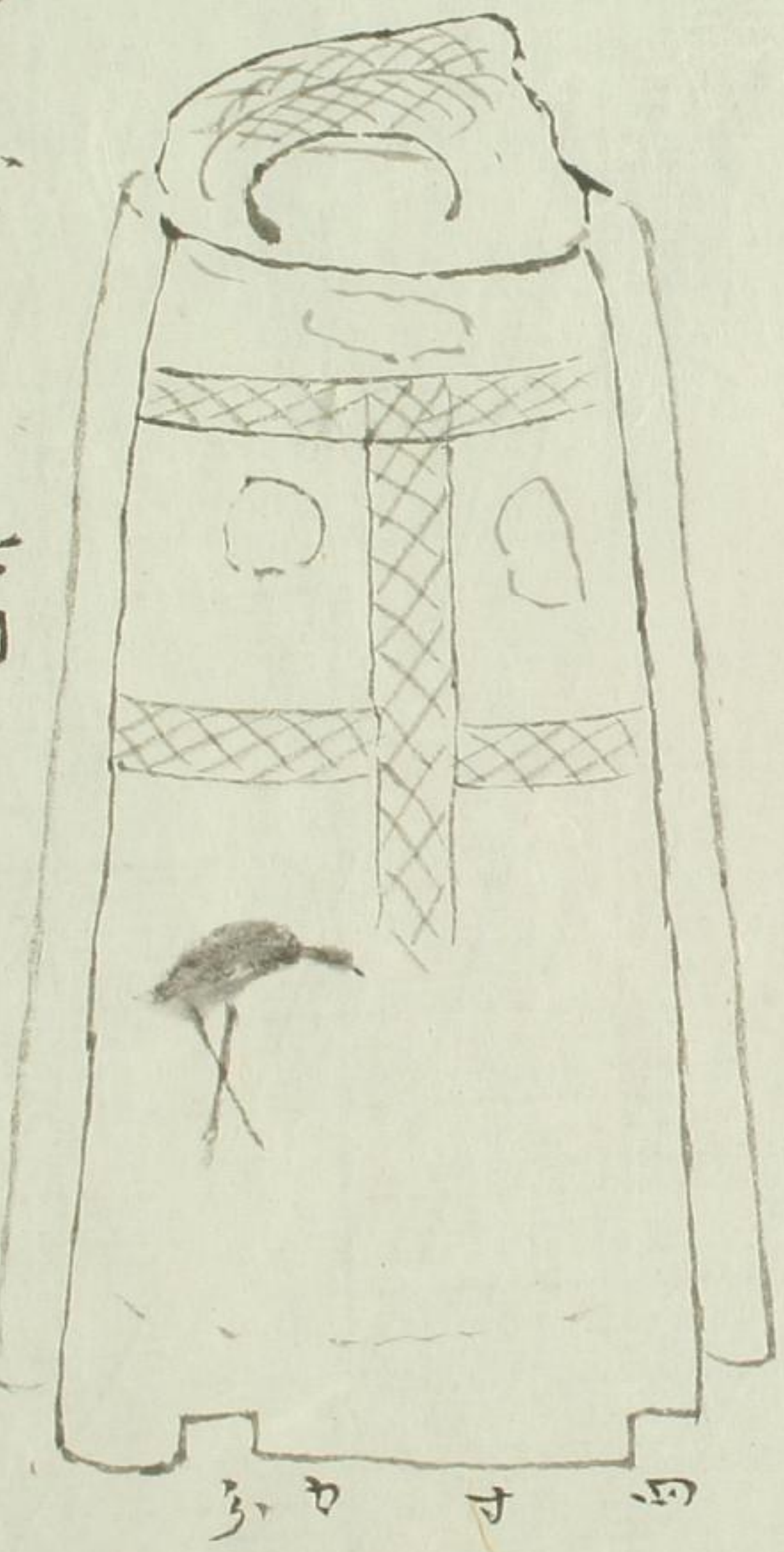
豊前 永^{クモテ}提山の経筒
久安三年の年
下總所倉正石山長勝寺
福徳二年

延文會の細札會
の形

福徳二年 延徳三年
延文會 比五年
年 南會 三會
細札會 宣文十

小銅鏡

小銅鏡
鶴 一羽
アソビ磨
滅 甚シ
ク 何モ見
ユズ



鶴形後彫
下

セヨ

南父見

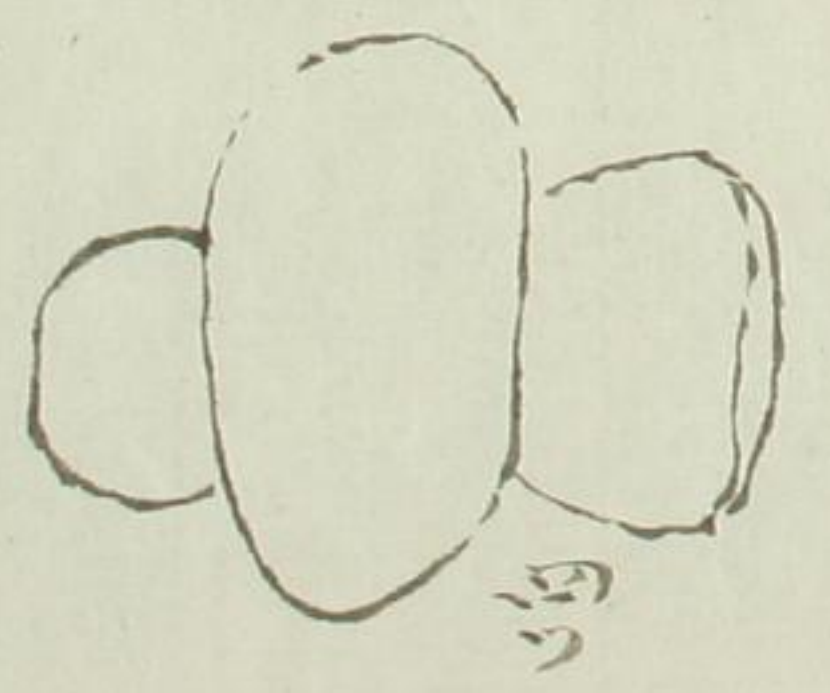
古物會志序其よし
明治二年五月十九日有會序費一名二百五銀
和 古物會
午後三時開演
連月十九日柳橋下ハニナ

蝦夷人の標々スレザリとカコッル

市川寛母著男三市筆之
青砥和志六冊
日録
巻一 青砥和志元也
巻二 漢半西ヨリ 穂白銀五銀也
巻三 開元ヨリ (天福鎮室父入アリ)

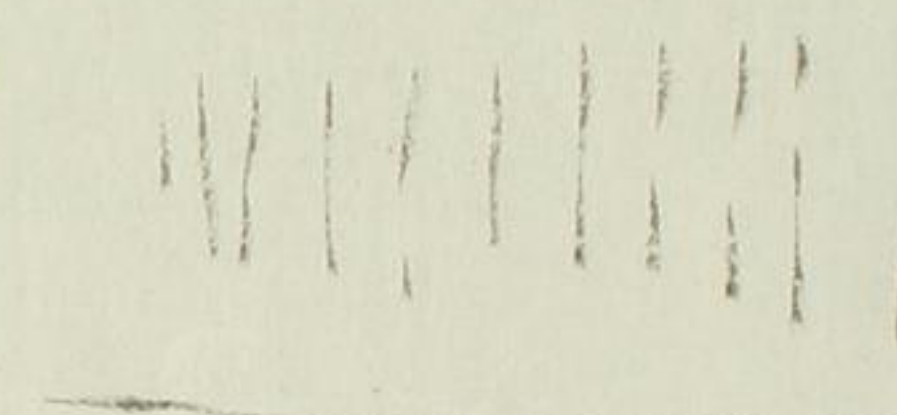
巻三 宋通元也 (照聖元也ノ鑓銀入アリ)
巻四 東交アリ
巻五 大平アリ 茲塔也
巻六 由東通元アリ
準提佛祖一面長命富貴
四ノ二年 孫トテ
武部和志在大畑村等柳原ハ林ノ成リ領地ヨリ此村ニ
日録巻三ニ記シ

田原和志
的者名知知即言田川村
大夏福園
為三身形也
三輪玉等ノ如ク



南陽之西以藤負斡一書幅之藏其橫幅之上也
石堂之三子大書之于一下無佛之記

龜石堂



余性不如佛故宜無謂鬼之儼祭
無苦空之說獨以好古之癖其事
苟可以徵古其書首可以法後因佛而
存焉者亦不思其書始獨擅臨摹
而不置其及第玩之微亦必摹
造無遺其書始獨擅臨摹而不置
謂足矣以成我一累而不自知也頃獨
而展既之其
呻可徵古而法後二其言則非禮非義
讀未終緘而自聽之向噦之生逼之佛
之為說純倫

雜道故君子不入其鄉也而獨念為嗜
故物惑勞
心亦知巧以摹榻以自喜者何
其猶愈才斷之
而不棄其技藝也故今製而燬之
其或以用力之
苦不忍終棄者則與之友人同吾
惡癖執帚
愛掃道行我無佛齋大我
乾甲
安永五年歲次丙申仲春
壬人負斡歎

古堂佛堂之記
其手之記
博物館藏延曆二年具注曆
延曆二年具注曆
延曆二年具注曆

五山板

正火二八 三大 四小 五小 六小 七火 八火 九小 十大 十一火

五山板

密菴祥竹語錄

亦字十一行本

帝國大學圖書館藏

正應元年刊

五山板

古寫 圖像鈔卷本一卷 前四香雪文後廿

五山板

來々禪子集

十八字十行本

五山板

五山板

元弘元年刊

十六字九行本

靈源和尚筆記

曆應五年 康永元年刊

五山板

外解板 龍念手鏡 八卷 大本 木村正福藏

五山板

後漢城上會而因考而致是銘 今以文庫印本

五山板

慶長板 日本書紀 四卷

慶長元年 始撰者長壽寺下 行少 刻之 東傳 後 以勅本 板行

五山板

歷代序畧

古本

以書已收于版 亦以因 隨之 特為置于 此 乙亥甲寅仲冬 去



戶部

月庵和尚法語

元永廿年八月

右應永年八月廿五日支之刻也 如電局也

天文

貞永式目

以袖父常忠印後失年今抄出之處乃野井史業
野井盜取之而重令抄出之以此本可為珍一子之存
不可許一覽即也

天文三年閏二月廿八日抄其切

清三位入道源朝平行宗九判

明應

三體詩注

明應甲寅之秋新校畢工是刻之在京師者數矣
于丁亥之刻以故損皆刊行焉

置校竹葉年廣德之 景以累子教不

白文

其收流似自京至後南抄乞河佐并野宗初贈以
置之於家也 殆印摺之亦以終方身也

鹽山和泥合水泉

于時至德三年而仲春十五日始之

新德比五明道

新編柳韻增事類文苑大全

明德而於八月南校成

山日本十八日尋 零本一冊大在ナリ是の道文也

明應

至德

山日本

甘藷

甘藷、向う書籍及ハレの種

青身、此種、甘藷之記

甘藷、生、此

甘藷、生、此

甘藷、生、此

甘藷、生、此

甘藷、生、此

甘藷、生、此

甘藷、生、此

甘藷、生、此

元文三年甲子、此、用、此、記

三冊、元文三年、初、九月

越、上、海、書、院

冊

元文三年甲子三月

甘藷

初、元、文、三、年、三、月、甘、藷、種、書

甘藷

種

甘藷、生、此

甘藷、生、此

甘藷、生、此

甘藷、生、此

種

甘藷、生、此、種、書、院

下総のあげいし
梅づけいし
ついでいし
ついでいし
ついでいし
ついでいし
ついでいし
ついでいし

料理の山由姫

豆の料理あり
豆の料理あり

豆の料理あり
豆の料理あり

汁の味は味を
粥の味は味を

蓮の花はす
蓮の花はす

山由姫

山由姫

山由姫

山由姫

山由姫

山由姫

越前ちきり那服の沙流皮村、
山由姫とふあつちきり
山由姫とふあつちきり
山由姫とふあつちきり

越前の山由姫、
越前の山由姫、
越前の山由姫、

板研の画く
并詰り詰りの用
しるしの

板研

尾波多新大綱板研の利鈍
武王南河島、心をもる若大牛新馬等々心をもる板研あり

心をもる 至老實官

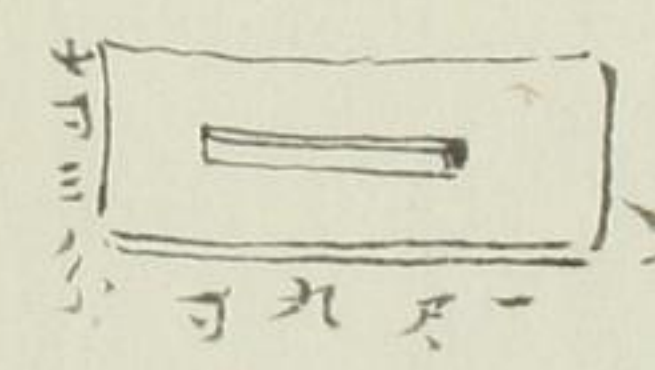
文永二年

日 文政二年二月

武蔵大里郡玉造村
延享三年卯卯の二研あり
天正十六年の板研あり

板研の石

三河善所寺に板研の石あり
若石研と同質あり



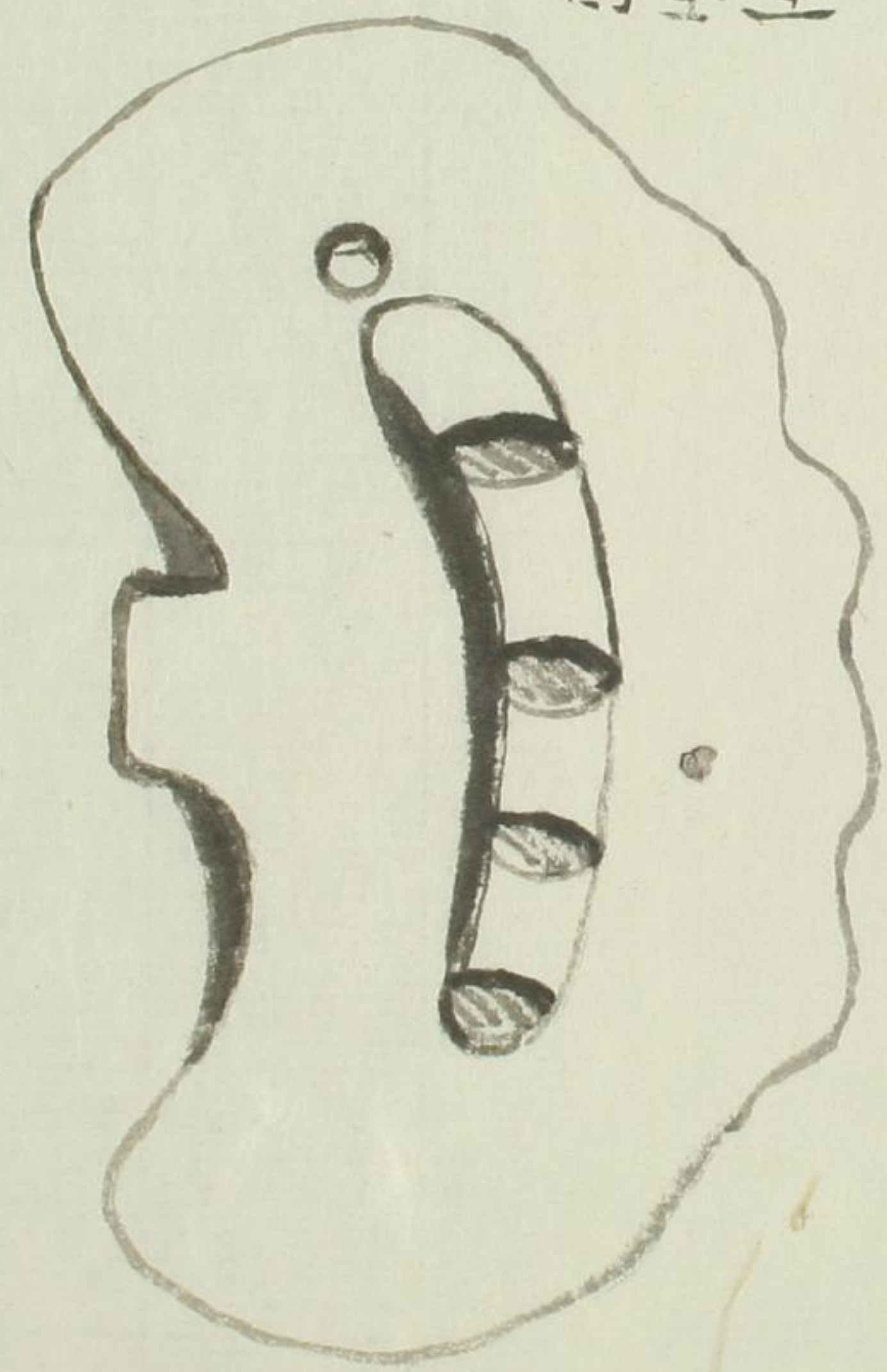
穴の長き
横の可なり

板研の石

攝津豊後郡中村板研岡の石
古板研の石あり

大曲玉

出所不明大曲玉
麻石様琉球曲玉
下物スルモノ大如圖



新板研

釋杖の環敷の法
正徳の善書あり
世藏せり
持玉あり
正徳の善書あり

天保五年...
河川本流...

河川本流... 右河原... 三河原... 刀利... 右河原...
天保五年... 河川本流... 右河原... 三河原... 刀利... 右河原...
天保五年... 河川本流... 右河原... 三河原... 刀利... 右河原...

古年...
也

三河...
也

天明... 右河原... 三河... 刀利... 右河原...
天明... 右河原... 三河... 刀利... 右河原...
天明... 右河原... 三河... 刀利... 右河原...

吉良...
也

吉良... 天明... 右河原... 三河... 刀利... 右河原...
吉良... 天明... 右河原... 三河... 刀利... 右河原...
吉良... 天明... 右河原... 三河... 刀利... 右河原...

河川本流...

牛久高田... 今茲延宝... 奉寄附高田...
牛久高田... 今茲延宝... 奉寄附高田...
牛久高田... 今茲延宝... 奉寄附高田...

大森氏信濃守

從五位下藤原姓

不識

和...
也

和... 初...

乾... 命

西... 命

光徳寺の鐘
の鐘

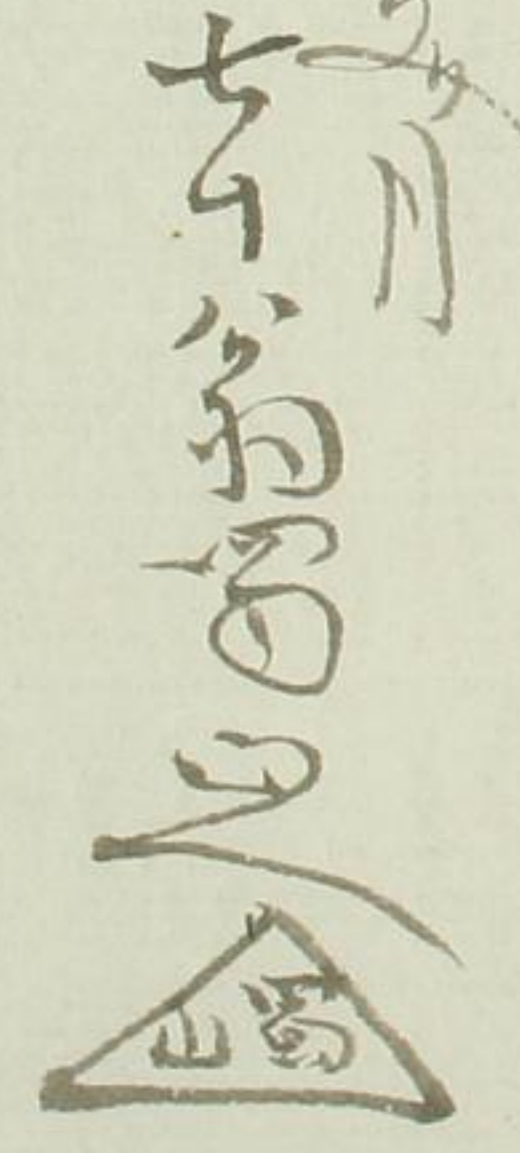
河内國八林多畑光徳寺ニ古鐘アリト云鐘ニ狸哥マリ
にまゝにてニツヒクニ此と光徳寺の照曜山の鐘ニ
ツツキ(ニツヒク
同狸哥リチカクニある古父の林氏に話され
コト光徳寺の鐘ニツツキコトニツツ

印
三三南

和歌ノ印と云はしる事あり一昨年辰暮にありと鳥丸無相
力かせぬひさしと云ふ事ありてありと云ふ事あり
見たりとの事なり形三三南ニテ五枚ありそのうち三枚光徳
と文書を抄書してありてありと云ふ事あり
と三三南あり名の事菊乃法子の三社の伝説あり
菊乃法子ありと云ふ事あり右指あり

本
三三南

河内國八林多畑光徳寺ニ古鐘アリト云鐘ニ狸哥マリ
にまゝにてニツヒクニ此と光徳寺の照曜山の鐘ニ
ツツキ(ニツヒク
同狸哥リチカクニある古父の林氏に話され
コト光徳寺の鐘ニツツキコトニツツ



光徳寺の鐘
の鐘
ツツキ(ニツヒク
同狸哥リチカクニある古父の林氏に話され
コト光徳寺の鐘ニツツキコトニツツ

一 新現の形勢
 一 此傳の画り
 一 新に引か
 一 物筆の格
 一 人之收

元亨元年
 元亨元年
 元亨元年
 元亨元年
 元亨元年

純極書

元亨元年

卯月本

卯月本

東國太平記右四軍記九州記義臣傳本佐錄以純極
 本と前原古抄七二
 元亨元年の著者、轉河内守の内務川某の編纂
 年、卯月本と云ふ、卯月本と云ふ、卯月本と云ふ

右の書之存者、親世左近
 大支入道、著、卯月本、卯月本、卯月本
 卯月本、卯月本、卯月本
 卯月本、卯月本、卯月本

有や無やの詞
子や女や

有や無やの詞

無や子やの詞

有や無やの詞

有や無やの詞

有や無やの詞

有や無やの詞

有や無やの詞
有や無やの詞

有や無やの詞

有や無やの詞

有や無やの詞
有や無やの詞

有や無やの詞

有や無やの詞

有や無やの詞

有や無やの詞

有や無やの詞

有や無やの詞

有や無やの詞
有や無やの詞

漢鏡出土

右の如きものありしものありしと云ふは、
秋宮の御所、天保七年春宮の御所、
と書谷の御所、
明治廿八年甲子府在里坂村より漢鏡、
四乳の馬鏡、
發見せし經二寸九分

朱利幹新誌 画入五冊 春日樓藏板

安政二乙卯年刊

朱利か、
書の程カ

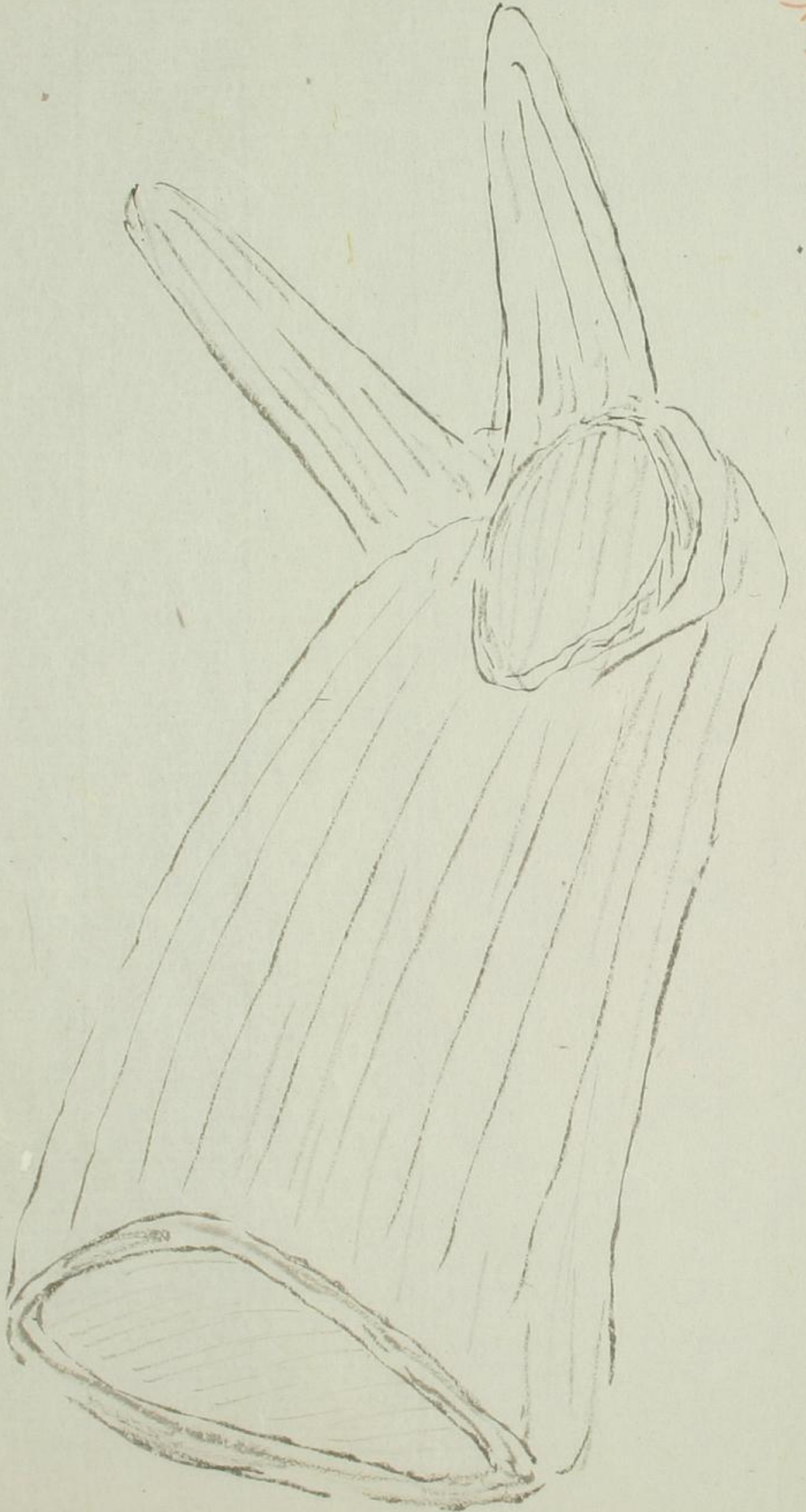
竹林捷徑 東都園恒 志音明甫著 一冊

享保三年四月朔日 富春山房藏板

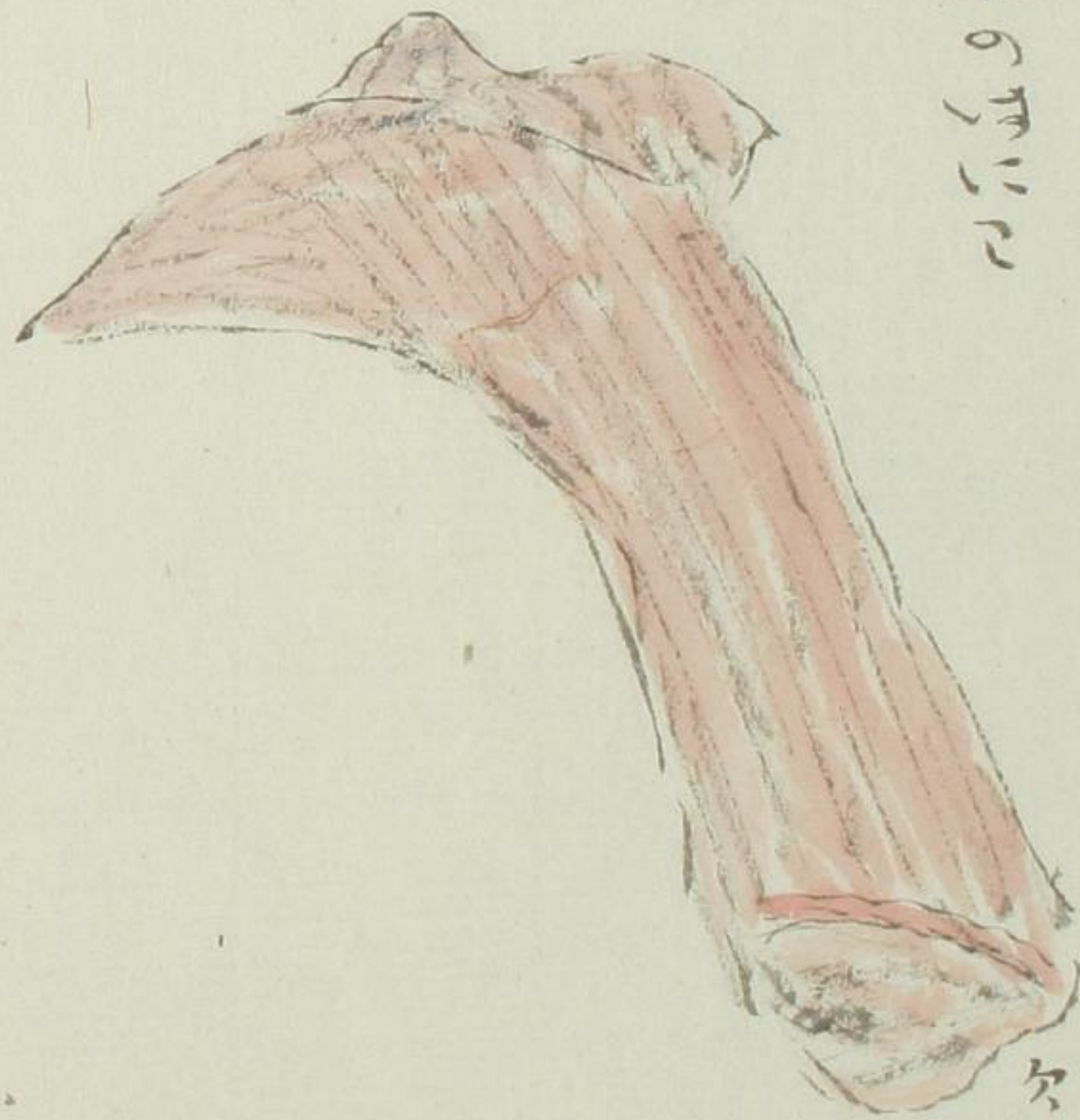
妙法蓮華經科註 意存、
妙法蓮華經科註 意存、

免の如きものありしと云ふは、
と書谷の御所

下總縣 鹿嶋郡 葛山古所 所出 植輪ノ免 及



薬のほにこ



うすまゝ魚乾を敷きし魚の骨をいふ今世をいふ
馬牛猪猿虎の五種を敷きし魚の骨をいふ今世をいふ
この魚の骨をいふ今世をいふ今世をいふ

昔長紙本今平言及及る平人カ切者

静園陸所考所似成原との静園妙相細相中入り論
若也為理孔而口茶



昔長紙本の
臨海寺の
古蹟刊

慶長御書
慶長の墓

浅草普願寺墓心、慶長元和等の古墓二三墓あり
下、用事墓の墓心以外部の石七作
古の墓石は信長寺に
慶長三年三月
○ヤナニ
実地青い
川月

結城の墓

常河結城寺 結城義昭の墓ありと云々



古鐘

相馬中郡日向村長山寺、古鐘アリト
曆應三年丁未十二月十日甲
古鐘銘文ヲ知ラズ年号ノ三ノ向キタカ記シテ
干光寺ニ文保二年八月ノ銘アル 鉄塔アリトモリ



別画

文保の別画なる一紙あり

寶三ハ信大燈
歳十松場録
長河吹鍋井也

大正の松と灯の交り
意のあめしめとて

此(子)古伝也

金銀書

新地埴輪の墓あり今認る事あり守とふと云ふが
守の墓あり伊豆の長保と云ふ伊豆の用事とせし
是成りて守の墓ありとせし由多田の墓ありと云ふ
伊しなりと云ふ今世に昔の墓と云ふは是の墓なり
深井西福寺ニ安長ノ守れらむと云ふ今 神州中城
向井東ノ方アリと云ふ也
深井の寺に村に云ふは
鐵板橋ノ前と云ふ

鐵板橋

鐵板橋

大イダラ

分改河原天皇の御時枚研ありしと云く
 諸王大多羅法師の遺跡とて怪力の僧ありしと云く
 美濃國石津郡大青水院村に近き大平法師遺跡トテ
 足跡アリト里人感讃ス此法師近江湖水ヲ誇ル論タリト
 云ク (美濃古蹟考)
 遠江船田即見舟船田原赤松公持也水師也アリ大
 又所珍也世世トモ足跡ト云フアリト
 東京回春新所ノ先々皆塚ノ前、枚研の格、大イダラ
 常陸古那所郡大津村原穴近ト云フモリ大太常坊足跡ト
 云フ傳云ク武夫人一誇、大津村ヲ海邊ニ至リ貝ヲ採リト

此後八代即而南宮美濃守長良大臣、大人有と云也の
 九のころいふ力ありしと云く

正妙、妙我山、乃、有、長良の遺跡、其の跡と云ふありしと
 證、長尾打、固者、其の而、遺跡、長二尺巾、一尺深、四寸
 平也、唐三言、又、長良、其の、四寸、有、あり、大、く、の、遺、跡、也、而、を
 甲斐東山梨郡加納郡村、小集ヤリ里人山梨園ノ古跡ト
 初ス傳云フ昔時シラウホツナト云ク怪力ノ僧アリ麻幹
 ヲ初トシラニツノ山ヲ荷メ来リシカ也也来リシハ加納山梨木
 園ト今ノ塩山トヤレルニツノ山玉麻幹ヲ折レる為、出来山ナリ
 ト加納也也今ノ麻ヲ麻也也他ハ凶事アルト云ク

東三梨山、ハシラボツラ、腰杖、石トモモ、志ハ、アリトモク
石見、即、賀、即、大、兼、山、大、人、の、尿、と、云、あ、海、山、と、大、麻、山、コ
端、跨、リ、て、放、便、せ、る、云、云、ん、が、肥、料、と、云、女、が、他、也、也、也、
と、云、

日向、大、大、大、と、云、若、し、ハ、を、娘、嫁、う、ん、城、の、院、と、云、一、百、七、也、
ハ、此、子、大、大、大、と、云、ハ、ハ、ハ、の、繪、巻、也、也、
盛、安、記、云、云、云、大、正、記、の、あ、ハ、ハ、云、云、ハ、言、ひ、あ、せ、り、也、
信、濃、上、諏、訪、所、手、長、社、云、云、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、
の、水、神、と、云、有、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、
二、年、長、定、長、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、
上、加、多、時、即、ハ、幅、也、大、才、木、部、ノ、亦、認、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、
山、ハ、腰、杖、と、定、也、云、云、ト、カ、シ、カ、定、跡、が、云、云、ハ、ハ、ハ、ハ、

ゲンコソ和尚

前、ハ、大、大、大、と、云、怪、力、の、云、と、云、云、が、云、云、ハ、世、の、人、云、云、後、
尾、の、云、云、と、云、の、物、外、和、尚、が、云、云、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、
奉、リ、以、テ、杖、杖、ヲ、オ、キ、キ、ト、忍、ビ、怪、力、ナ、リ

源光之の傳

安、房、方、圓、外、由、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、
鏡、の、云、云、と、云、の、云、云、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、
云、云、中、右、之、ハ、源、親、元、ノ、一、リ、也、
永、長、元、年、丙、子、の、月、二、三、日、守、ハ、任、ス、秩、滿、ヲ、京、ノ、帰、ル、途、に、
論、ヲ、遮、リ、近、留、ル、コ、ト、父、母、ニ、離、ル、如、シ

經女

遠、江、原、名、大、福、寺、布、學、例、ハ、經、石、ヤ、リ、ト
相、加、中、即、神、刀、村、方、中、ハ、經、石、也、云、云、ハ、ハ、ハ、ハ、

石鏡手鑑

中、右、觀、山、著、古、鏡、百、圖、享、保、六、年、辛、丑、ニ、十、八

石

石

石

石

石

石

石

石

石

石

石

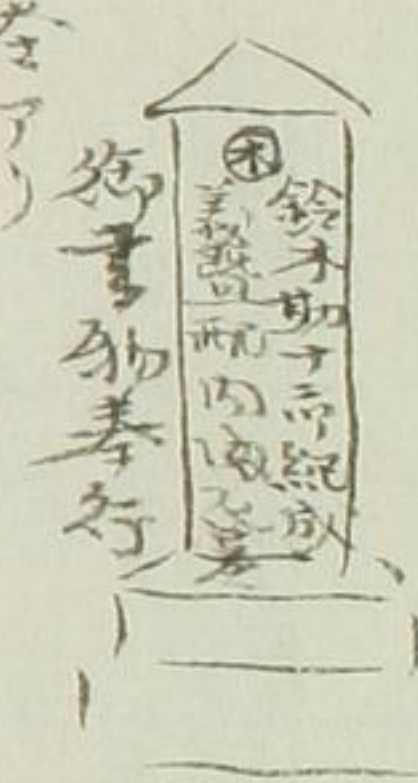
石

石

古泉考 昭和三年 年数ヲ考ヘ

出三書ト見

牛也袋所光



明治六年八月

Main body of text on the right page, discussing historical records and coinage, with several red annotations.

Main body of text on the left page, continuing the historical discussion with red annotations.

桂の寺に

相馬津瑕墓神宮



丹波の所の古物店に桂の寺の物もよくあると云ふ

浄土の

下谷の成道の要を主として書く
とて整へたる条々を
つらつら書きし
山王の墓の傍に
浄土の
浄土の
浄土の



道安の

天下太平國家安穩
五福具順六德兼備

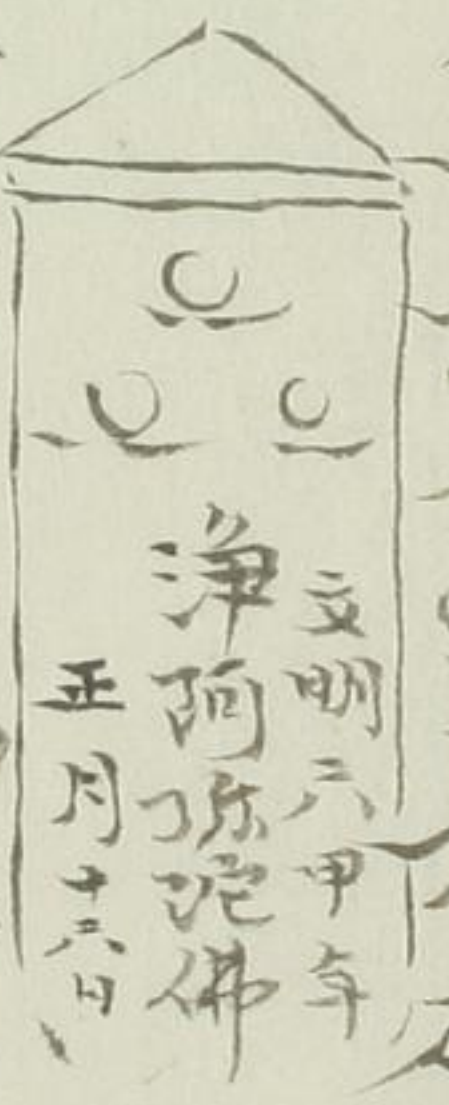
延喜二年 正月廿七日
應需管原道實 書之

道安が自書した文あり 必おしりたる道實と云ふ

物研

武蔵入向即野老の村の近敷研

野老の村



身長の地有り古研十八枚出たり
山王の墓の傍に
未迎寺の傍

天明六年二月廿八日

若林村越生川

都邊 若志越者為逆修行善之衆并同
文和
合力之人乃皇清奉現當成就也

菩提樹村

建長三年三月

しん 心 出 三
光のり也
念のり也

林 延文二年三月三日

言寺御坊村長福寺境

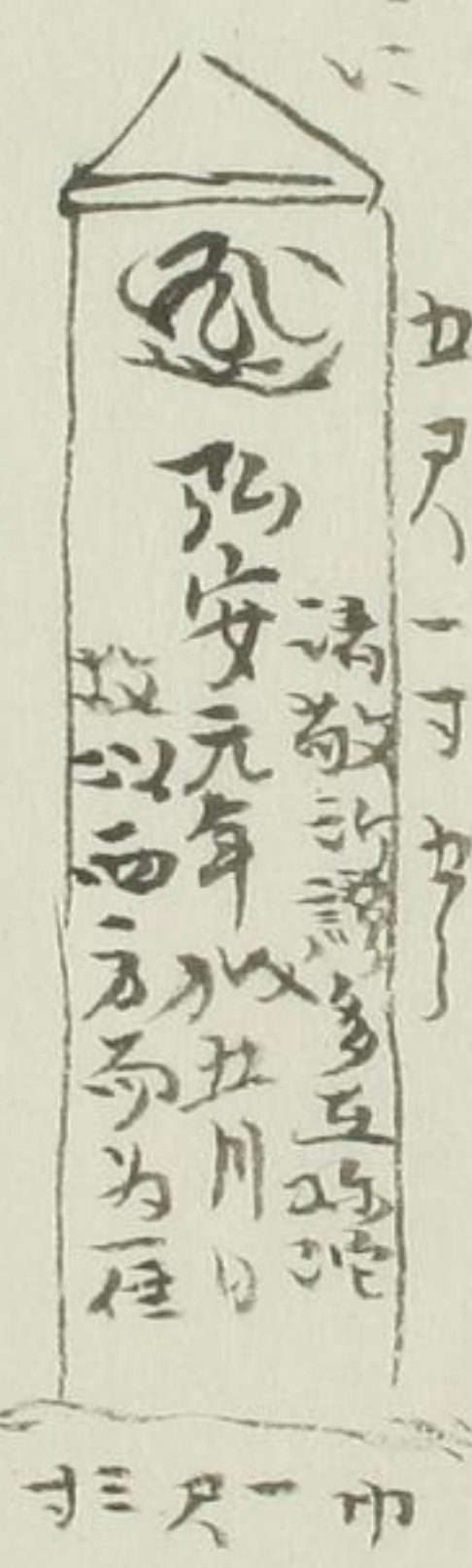
三月仲 辰 天文二年二月吉日

山打越村善賢院

延 永仁二年七月廿六日孝子

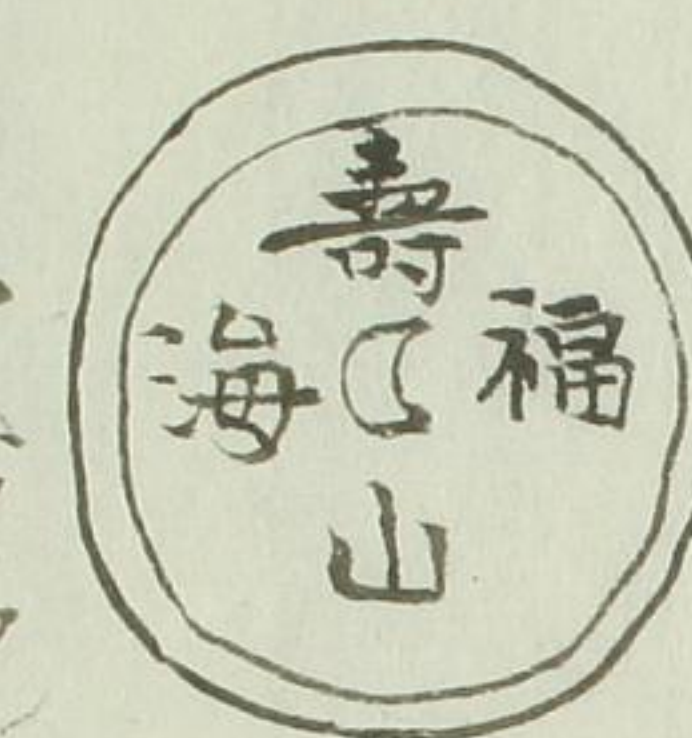
以上板碑神老の記述の如く未見或人の記述あり
柳川浦橋板碑の樹下にあり 正和二年の板碑あり

浦橋の記述



壽山福海鏡 經一尺一寸弱 重三斤三十七兩

無鏡大中興武次ノミヤ也



相河古伝記... 延文二年三月三日... 天文二年二月吉日... 正和二年の板碑あり

火の境

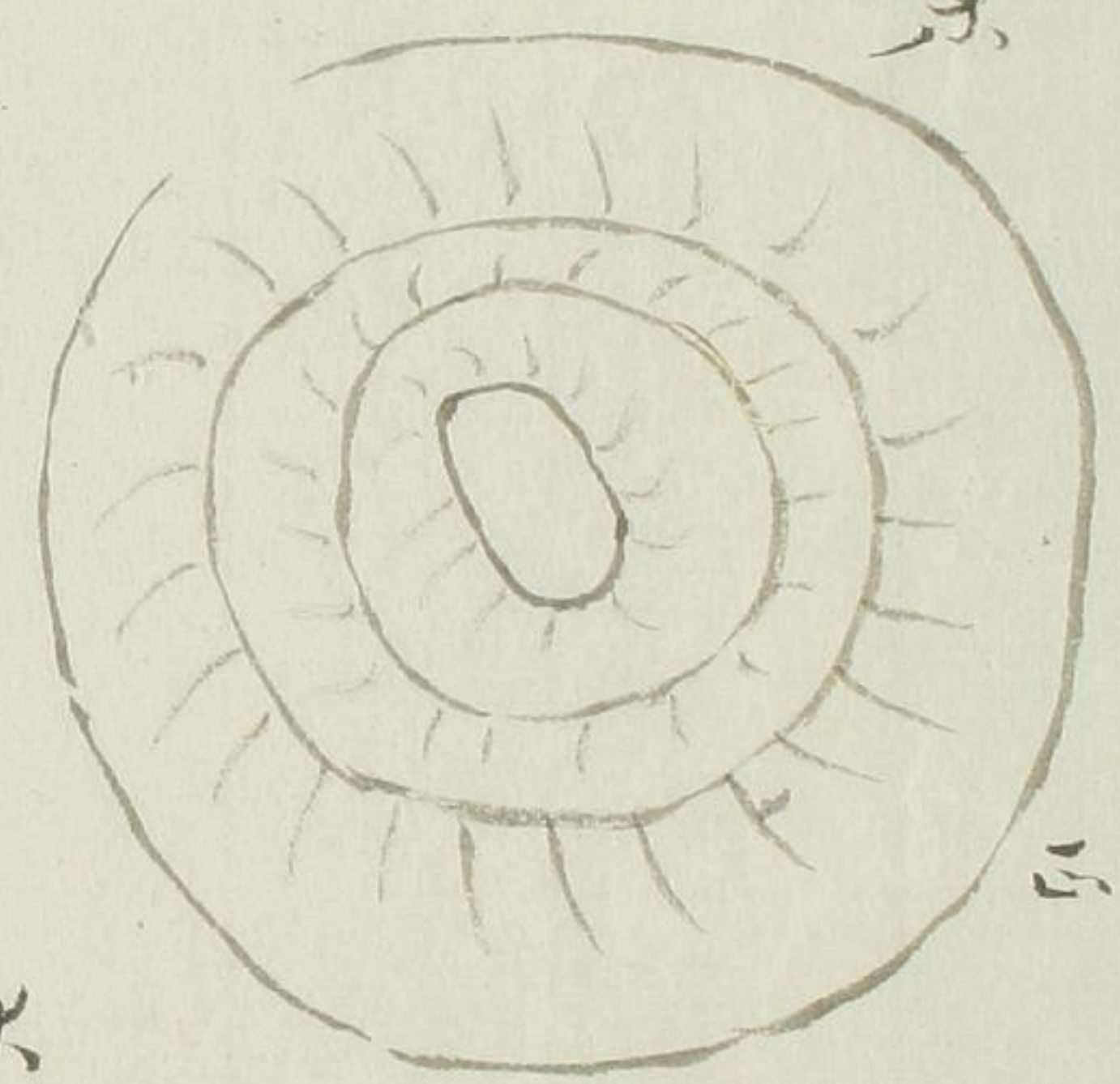
相河古伝記

秦漢瓦當

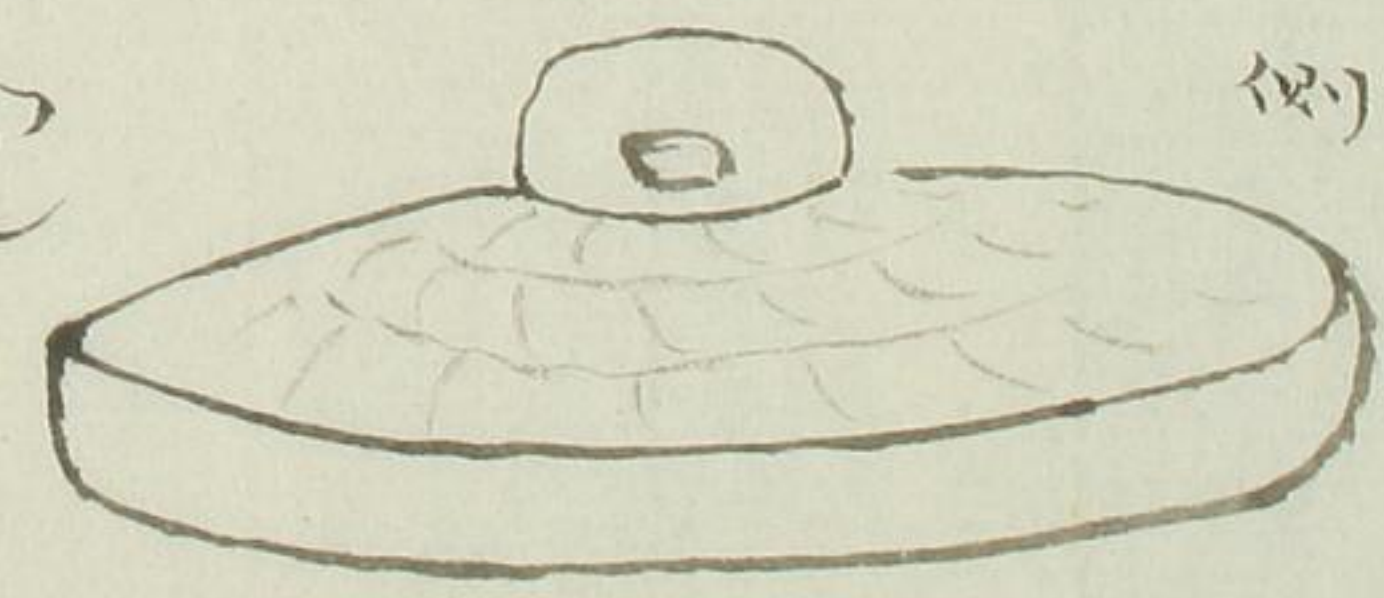
秦漢瓦當「天保七年歲而申季夏」
来會堂
初刻と見ゆ

石鏡

工部國北村
那野瓦打
石鏡



正



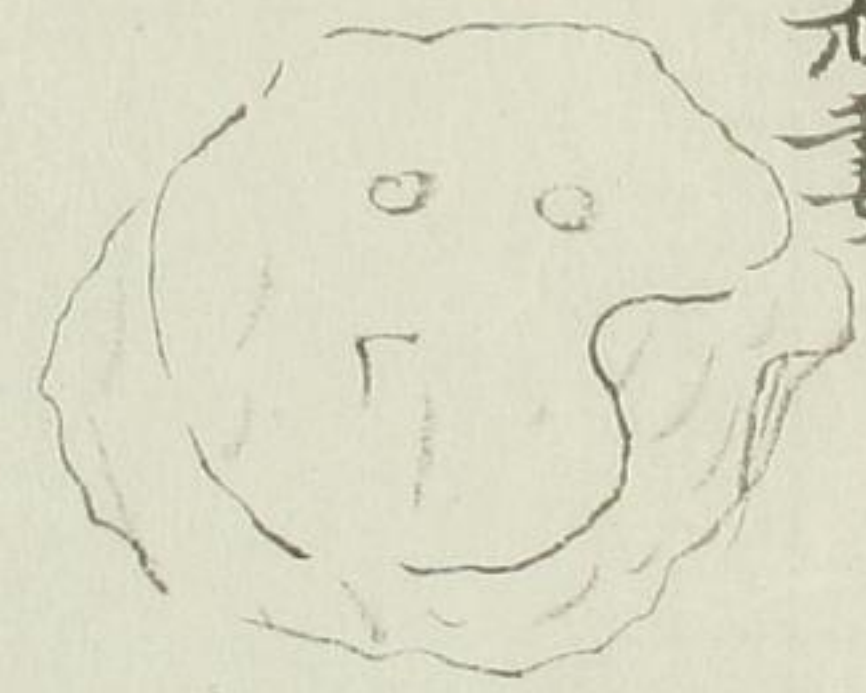
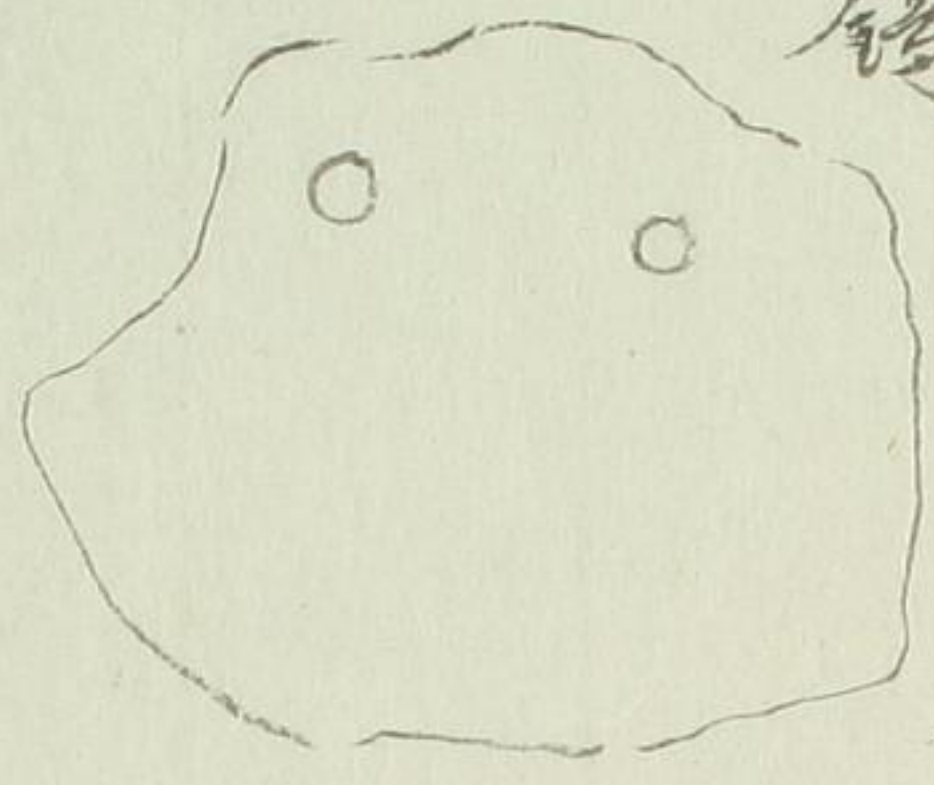
例

板碑

千住天王社神職「板碑」
大岡、如し

石鏡

周防山下宇野村
出土石鏡



石鏡

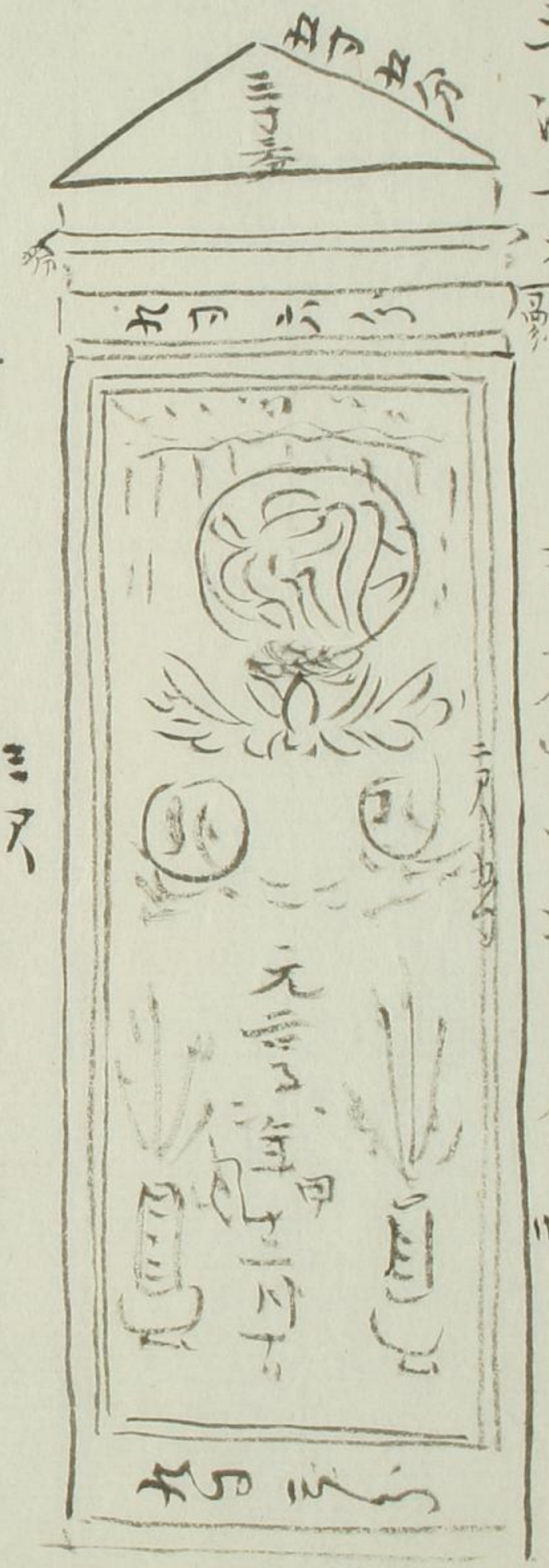
武蔵
石鏡

越後而南余那多野村
千住天王社神職「板碑」
大岡、如し

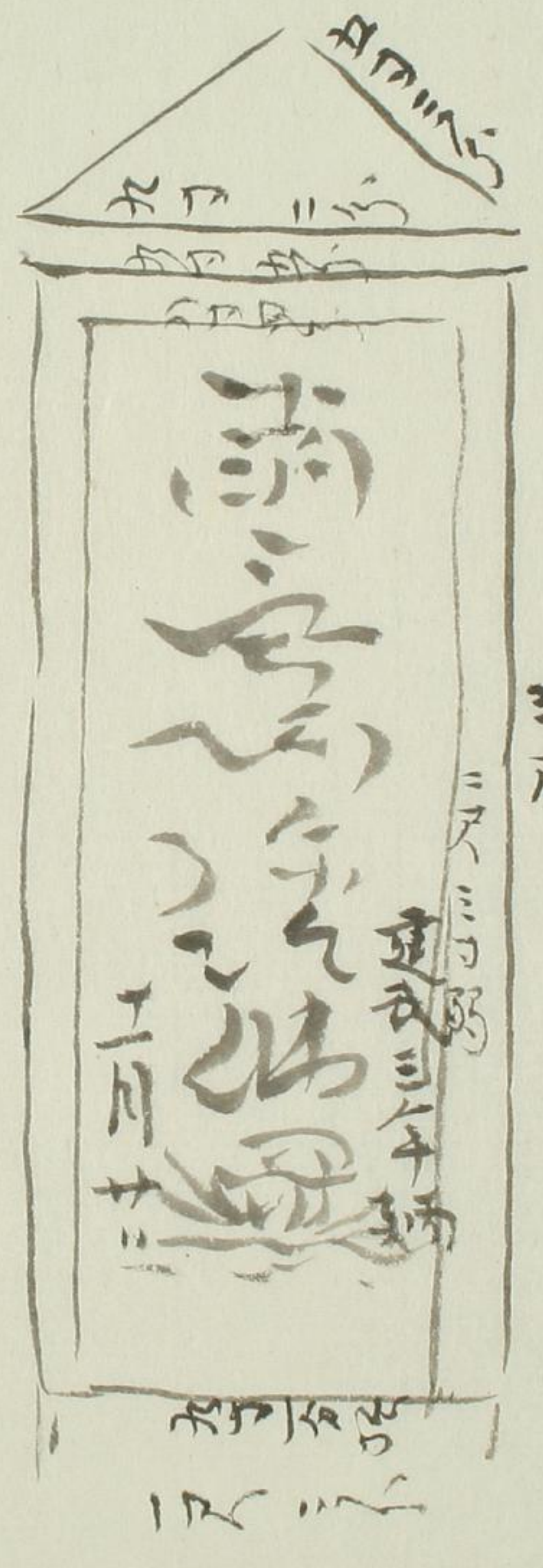
普濟寺
板碑の寸

普濟寺板碑の寸

三尺三寸七分



三尺



總高四尺七寸四分余
横巾一尺一寸五分



三尺七寸

文正三年百葉
松達寺坊出之日者竹物並刀

三尺三寸七分
十カゴ四寸巾三寸五分

湯津打板
寺

下打那
室字銘
中河岸半也
三尺三寸七分
巾三寸五分

都々亭

投筆と云ふは、都々の因りて、都々の、
投筆と云ふは、都々の因りて、都々の、
投筆と云ふは、都々の因りて、都々の、

投筆と云ふは、都々の因りて、都々の、
投筆と云ふは、都々の因りて、都々の、

投筆と云ふは、都々の因りて、都々の、
投筆と云ふは、都々の因りて、都々の、

投筆と云ふは、都々の因りて、都々の、
投筆と云ふは、都々の因りて、都々の、

共古日録 五

目二百八十二



家

姓

呼

1911年10月10日



無

子



井光原



庚

駿河國



子

子

子